射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ

－高島Ａ遺跡本発掘調査 ・ 広上地区分布調査他－

2012年

富山県射水市教育委員会

上　高島Ａ遺跡遠景（北から）　下　高島Ａ遺跡７地区12号土坑　土師器出土状況（古墳時代）

巻首図版 2

高島Ａ遺跡　７地区出土遺物（古墳時代）

射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ

－高島Ａ遺跡本発掘調査 ・ 広上地区分布調査他－

2012年

富山県射水市教育委員会

例　　言

1　本書は、平成22年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。

2　分布調査・試掘調査・本発掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。

3　対象となった埋蔵文化財、並びに調査に関する位置・原因・面積・期間等は各章に記した。

4　本書の執筆・編集は、射水市教育委員会文化・スポーツ課主任 田中　明・主任 金三津英則が担当した。

5　発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）

【現地調査】　木谷和夫・佐藤由勝・高木　武・釣　清範・端　充弘・湊　敏之・安吉詔明
山田一成　（以上射水市シルバー人材センター）

【整理作業】　高瀬直子・開　一美・堀埜実津子・吉沢泰子

6　発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡　　例

1　本書で用いた座標は世界測地系第Ⅶ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海抜高である。

2　遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。

ＳＢ：柵列　ＳＤ：溝　ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑

3　遺構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の1／4を基本とするが、縮尺の異なるものはスケールとともにその縮尺を表記した。

4　出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。

5　本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。

6　第４章第１節における発掘地区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し種類は次のとおりとした。

●：縄文土器　□：弥生土器　▽：土師器　▲：須恵器　■：珠洲　□：中世土師器
○：中世陶磁器　⊗：近世陶磁器　◎：木製品　◆：石製品　★：金属製品　◇：鉄滓
☆：その他（近代以降）　Ｔ：トレンチ

7　遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。

■：須恵器・珠洲　■：煤・炭化物　■：赤彩処理

目　　次

第１章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1

第２章　高島Ａ遺跡本発掘調査 …… 3
第１節　調査に至る経緯 …… 3
第２節　調査の概要 …… 4
第３節　遺構と遺物 …… 4
第１項　本発掘調査７地区 …… 4
第２項　本発掘調査８地区 …… 8
第３項　本発掘調査９地区 …… 8
第４節　総　括 …… 15

第３章　広上地区分布調査 …… 19
第１節　調査に至る経緯と調査の経過 …… 19
第２節　調査の方法 …… 20
第３節　調査の概要 …… 20
第１項　基本層序 …… 20
第２項　遺構・遺物及び地形の状況 …… 20
第３項　歴史的環境と調査のまとめ …… 22

第４章　その他の遺跡調査 …… 24
第１節　平成22年度試掘調査概要 …… 26
１．小林遺跡 …… 26
２．今井二島遺跡 …… 26
３．田町遺跡 …… 27
４．三ケ遺跡 …… 27
５．八塚Ａ遺跡 …… 28
６．三ケ遺跡 …… 28
７．新屋敷遺跡 …… 29
８．日宮城跡 …… 29
９．黒河南遺跡 …… 30
10．本江宮田遺跡 …… 30
11．朴木Ｃ遺跡 …… 31
12．朴木Ｃ遺跡 …… 31
13．八塚Ａ遺跡 …… 32

巻首図版目次

巻首図版１　高島Ａ遺跡遠景　７地区12号土坑　土師器出土状況（古墳時代）
巻首図版２　高島Ａ遺跡　７地区出土遺物（古墳時代）

挿図目次

第１図　射水市の位置 …… 1
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第３図　発掘区位置図［高島Ａ遺跡］…… 3
第４図　遺構実測図［高島Ａ遺跡７地区］…… 5
第５図　遺物実測図［高島Ａ遺跡７地区］…… 6
第６図　遺物実測図［高島Ａ遺跡７地区］…… 7
第７図　遺構実測図［高島Ａ遺跡８地区］…… 9
第８図　遺物実測図［高島Ａ遺跡８地区］…… 10
第９図　遺物実測図［高島Ａ遺跡８地区］…… 11
第10図　遺構実測図［高島Ａ遺跡９地区］…… 12
第11図　遺物実測図［高島Ａ遺跡９地区］…… 13
第12図　遺物実測図［高島Ａ遺跡９地区］…… 14
第13図　弥生大溝・中世区画溝位置図 …… 15
第14図　調査対象地及び周辺の遺跡 …… 19
第15図　分布調査の結果 …… 21
第16図　試掘調査位置図 …… 25
第17図　遺物実測図［小林遺跡・三ケ遺跡・新屋敷遺跡・朴木Ｃ遺跡］…… 32

表目次

第１表　出土遺物観察表［高島Ａ遺跡］（ １～ 53）…… 16
第２表　出土遺物観察表［高島Ａ遺跡］（ 54～106）…… 17
第３表　出土遺物観察表［高島Ａ遺跡］（107～126）…… 18
第４表　平成22年度埋蔵文化財発掘調査一覧 …… 24
第５表　出土遺物観察表［試掘調査］（１～７）…… 32

図版目次

図版１　遺構全景・溝・土坑　［高島Ａ遺跡７地区］　ＳＤ07　ＳＤ09　ＳＫ03　ＳＫ12
図版２　遺物出土状況　［高島Ａ遺跡７地区］　ＳＤ09　ＳＤ18　ＳＫ10　ＳＫ12　ＳＫ17
図版３　出土遺物　土器　［高島Ａ遺跡７地区］
図版４　遺構全景・土坑・井戸　［高島Ａ遺跡８地区］　ＳＫ02　ＳＫ12　ＳＫ43　ＳＥ20
図版５　出土遺物　土器　［高島Ａ遺跡８地区］
図版６　遺構全景・溝・土坑　［高島Ａ遺跡９地区］　ＳＤ18　ＳＤ20　ＳＤ22　ＳＫ28
図版７　出土遺物　土器　［高島Ａ遺跡９地区］
図版８　分布調査／遠景　［広上地区］
図版９　分布調査／土層断面　［広上地区］
図版10　分布調査／調査状況・出土遺物　［広上地区］
図版11　試掘調査／出土遺物　［小林遺跡］
図版12　試掘調査／出土遺物　［三ケ遺跡］
図版13　試掘調査／出土遺物　［新屋敷遺跡］
図版14　試掘調査／出土遺物　［朴木Ｃ遺跡］

第１章　遺跡の位置と歴史的環境

第１図　射水市の位置

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.18㎢である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0～140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれていることから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約９万３千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約７kmの範囲の低湿地帯である。およそ１万～８千年前に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は縄文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約５m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが澱み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境で、先人達は集落を形成していったものと考えられる。現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡の立地が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂Ａ～Ｄ遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島Ａ遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、竪穴住居や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営われてきたと考えられている。

高島Ａ遺跡は、庄川右岸に形成された標高約1.5m前後の沖積低地に立地し、弥生・古墳時代を主体とする遺跡である。平成９年度本発掘調査では弥生時代中期の周溝をもつ平地式建物２棟と方形周溝墓１基が確認されている。また平成14年度試掘調査では、遺跡北半分の遺構分布範囲を確定している。平成17年度には、土地区画整理事業に伴う本発掘調査が行われ、弥生時代後期～古墳時代前期、鎌倉時代～室町時代の遺構・遺物が確認され、全国初となる装飾性に富んだ石製品も出土している。

広上地区は、射水市南西部に位置する東西約1.0km、南北約1.9kmの水田地帯である。同地区では、これまで埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、文献史料では、「広上」の地名は鎌倉時代中期の文永７年（1270）に現れ、周辺の小泉・上条・下条・島の５か村と共に「浅井郷五ヶ村」と称された。また、地区にある広上神社には、射水市指定文化財である「木造男神像」が伝えられるなど、中世以来の歴史をもつ地域である。

第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡

第２章　高島Ａ遺跡本発掘調査

第１節　調査に至る経緯

平成13年度、新湊市（現射水市）鏡宮地区における土地区画整理事業計画の照会を受けた。平成14年度、事業計画地が埋蔵文化財包蔵地（高島Ａ遺跡）に含まれることから、遺跡保護と工事計画の調整を図る目的で試掘調査を実施した。その結果、計画地南側半分の約25,000㎡を中心に弥生時代中期から古墳時代前期の遺構・遺物を確認した。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、本発掘調査による記録保存が必要との判断を示した。平成17年度、造成工事に先立ち計画道路部分の3,212㎡において本発掘調査を実施した。平成19年度、分譲が開始され宅地49区画で遺跡の保護措置が必要となり、工事が地下遺構に与える影響を判断しながらの対応となった。平成19・20年度各１件、平成21年度４件、平成22年度は３件の本発掘調査・２件の工事立会を完了し、残り38区画は平成23年度以降の対応となった。

第３図　発掘区位置図［高島Ａ遺跡］

第２節　調査の概要

調査区は造成工事により山砂の盛土がなされていたため、まず重機で盛土と旧水田耕作土を除去し、その後に作業員を投入して、遺構検出、遺構掘削、遺物取り上げを順次人力で行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影（35㎜・6×7中判・デジタル）や遺構概略図（1/100）、遺構断面図・遺構平面図（1/20）作成等の記録図化作業を実施した。調査終了後は、埋め戻しを行い現状復帰を図っている。その際に住宅基礎工事の改良掘削深度より深い遺構が検出された地区では、不同沈下防止のため新たな山砂を充填し重機で踏み固めている。

調査区の基本層序は１～３層に分層される。上から１層は山砂の造成盛土、２層は山砂の下の旧水田耕作土、３層は灰黄色(2.5Y7/2)粘質シルトの地山である。遺構は全て３層から掘り込まれている。

第３節　遺構と遺物

第１項　本発掘調査７地区

７号溝（ＳＤ07、第４・５図、図版１）

調査区西側に位置する南北方向の溝である。両端とも調査区外へのび、北端は二股に分れる。幅50㎝～88㎝、深さ25㎝～37㎝、全長約8.6ｍを検出。覆土は黒褐色シルトに炭化物が混在する。遺物は土師器が出土している。第５図１は口縁部が外反する有段壷、時期は古墳時代前期のものである。

11号溝（ＳＤ11、第４図、図版１）

調査区中央部に位置し、北西－南東方向に向けて直線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長約11ｍ、幅68㎝～144㎝、深さは最深で12㎝を測る。覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器・珠洲が出土している。

10号土坑（ＳＫ10、第４・６図、図版１・２）

調査区の北西部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸68㎝、短軸60㎝、深さ41㎝を測る。断面は逆台形状を呈し、覆土は上層に黒褐色シルト、下層に黒色シルトが堆積する。遺物は珠洲が出土。第６図29は4.2㎝幅の原体に卸目13条を施す片口鉢である。

12号土坑（ＳＫ12、第４・５図、図版１～３）

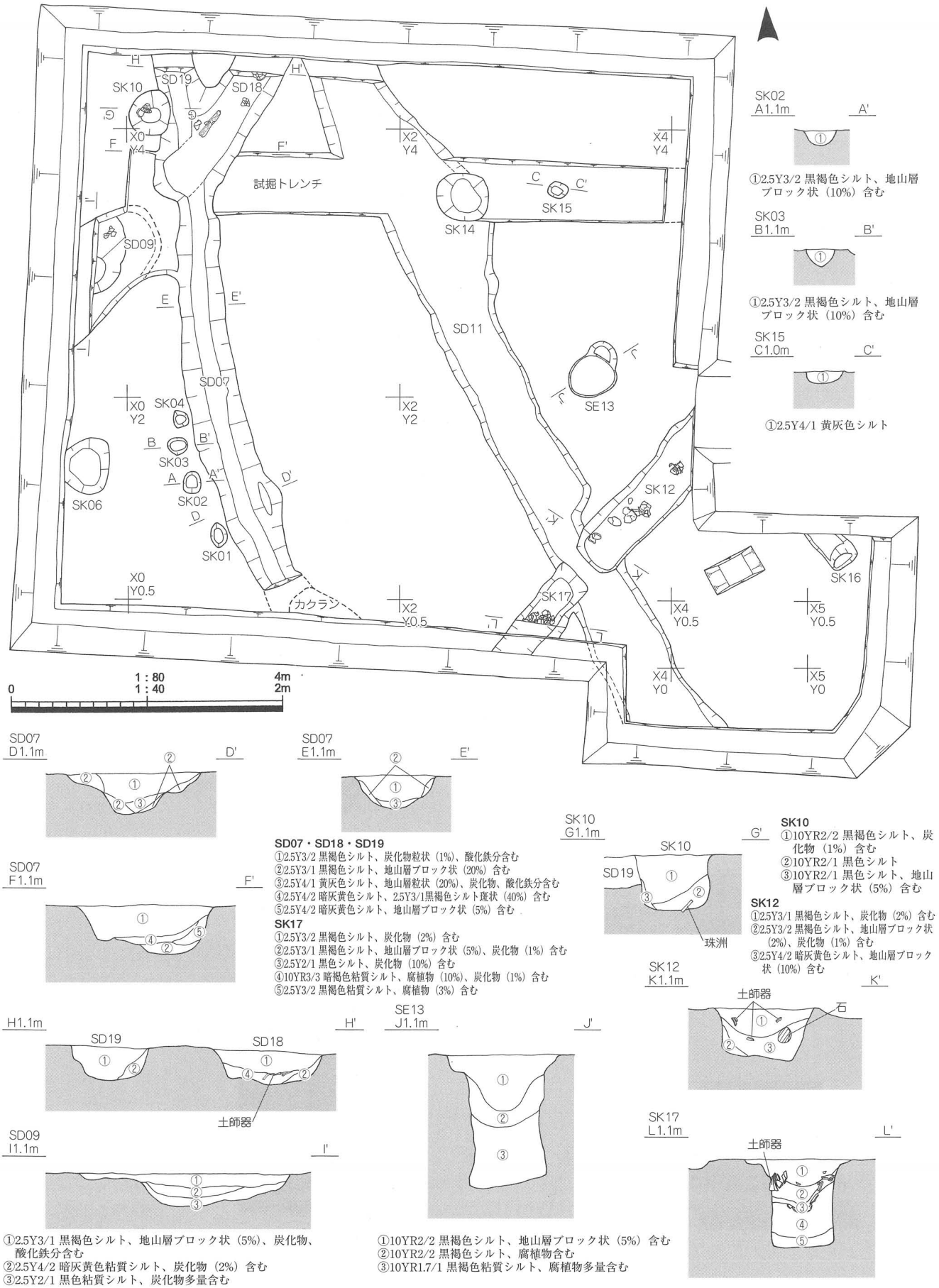
調査区の東側に位置する隅丸方形状の土坑である。全長約2.6ｍ、幅76㎝、深さ30㎝を測り、東端は調査区外へのびる。断面は逆台形状を呈し、覆土は上層に炭化物を含む黒褐色シルト、下層に地山層が混在する暗灰黄色シルトが堆積する。遺物は土師器が出土。第５図３・４は赤彩処理を施した高坏。８は内湾した深くて丸い体部で丸底の小型鉢で完形。９～13は「く」の字状口縁部の甕で外面に煤が付着している。時期は古墳時代前期のものである。

17号土坑（ＳＫ17、第４・６図、図版１～３）

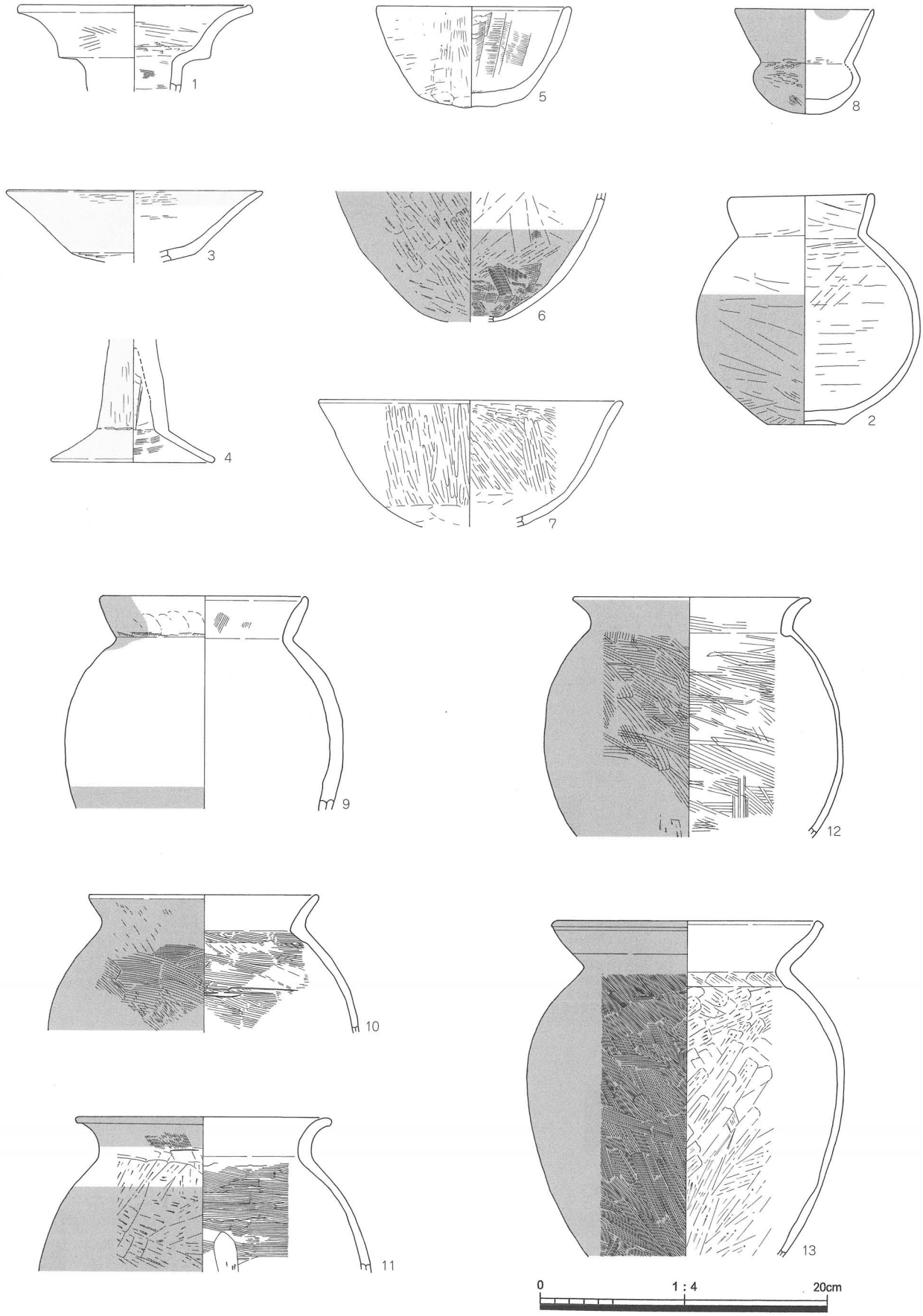
12号土坑と約24㎝の間隔をあけて直線上に位置する隅丸方形状の土坑である。全長約1.2ｍ、幅56㎝、深さ66㎝を測り、南端は調査区外へのびる。覆土は上層に炭化物を含む黒褐色シルト、下層に腐植物を含む暗褐色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器が出土。上層底部からまとまって出土しているため、ある程度埋まった後に一括廃棄されたものと考えられる。出土遺物の帰属時期が同じである12号土坑と同時期遺構と考えられる。第６図14・15は小型鉢。16・17は高坏の坏部。21～27は「く」の字状口縁部の甕で、時期は古墳時代前期のものである。26・27は体部外面に籠目痕が残る。

13号井戸（ＳＥ13、第４図、図版１）

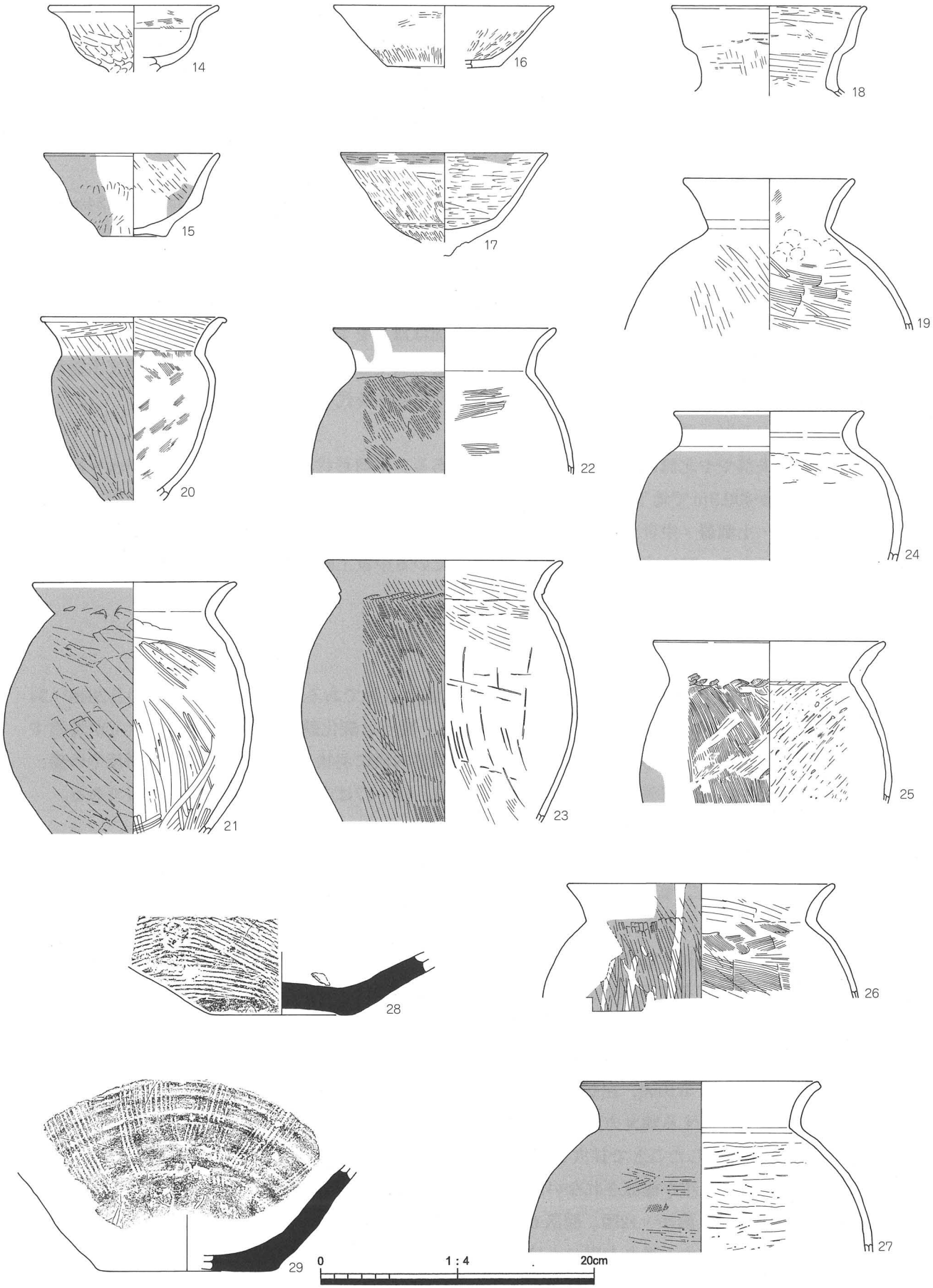
調査区中央やや東側に位置する素掘り井戸である。平面形状は不整形で、深さは１ｍを測る。底面での標高が約0.1ｍで地下水が自噴する。覆土は腐植物を多量に含む黒褐色粘質シルトが堆積する。遺物は図化できるものは無かったが、土師器片が出土している。



第４図　遺構実測図［高島Ａ遺跡７地区］（1/80、断面図1/40）



第５図　遺物実測図［高島Ａ遺跡７地区］（1/4）
SD07（1）　SD18（2）　SK12（3～13）



第６図　遺物実測図［高島Ａ遺跡７地区］（1/4）

SK17（14～27）　SK10（28・29）

第２項　本発掘調査８地区

41号溝（ＳＤ41、第７・８図、図版４・５）

調査区中央部に位置する幅38cm～46cm、深さ10cmの南北溝である。中央付近で珠洲が出土している中世期の40号土坑に切られており、その以北は判然としない。断面は弧状を呈し、覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器が出土。第８図44は口径16cmを測る有段甕である。

１号土坑（ＳＫ01、第７・８図、図版４・５）

調査区北東部に位置する楕円形土坑である。規模は長軸138cm、短軸74cm、深さは最深で24cmを測る。断面は概ね皿状を呈し、覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器が出土。第８図32は高坏又は器台の脚部である。透孔を施し、脚径19.3cmを測る。

２号土坑（ＳＫ02、第７・８図、図版４・５）

調査区の南東側に位置する不整形土坑である。断面は皿状を呈し、覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は縄文土器・弥生土器・土師器が出土している。第８図33・34は縄文土器か。35は口縁部内面に格子状刻みを施す弥生土器壷、時期は弥生時代中期後半のものである。

20号井戸（ＳＥ20、第７・９図、図版４・５）

調査区の中央部やや北側に位置する素掘り井戸である。平面形状は不整形で、深さは72cmを測る。底面での標高が約0.3ｍで地下水が自噴する。覆土は地山層が混在する黒褐色シルトが堆積する。遺物は縄文土器・土師器・中世土師器が出土。第９図58は内外面に赤彩を施す小型器台、時期は古墳時代前期のものである。71は内外面に炭化物が付着している中世土師器の灯明皿である。

第３項　本発掘調査９地区

18号溝（ＳＤ18、第10・11図、図版６・７）

調査区東側に位置し、北西－南東方向に直線的に流れる溝である。幅56cm～80cm、深さ20cm～34cm、全長約6.6ｍを検出し、北端は調査区外へのびる。覆土は酸化鉄分を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は弥生土器・土師器が出土。第11図75は口縁部内面に羽状文を施す弥生時代中期後半の甕、83～86は口縁部外面に擬凹線を施す弥生時代後期の甕、76・77は古墳時代前期の土師器壷である。

20号溝（ＳＤ20、第10・11図、図版６・７）

調査区中央部に位置する南北溝である。全長約3.3ｍ、幅54cm～65cm、深さ42cm～50cmを測り、北端は18号溝と切り合う。断面は概ね逆台形状を呈し、覆土は黒褐色シルトが堆積する。遺物は土師器・珠洲・中世土師器が出土。第11図98は口径18.6cmを測る有段壷、100は中世土師器皿である。

27号溝（ＳＤ27、第10・12図、図版６・７）

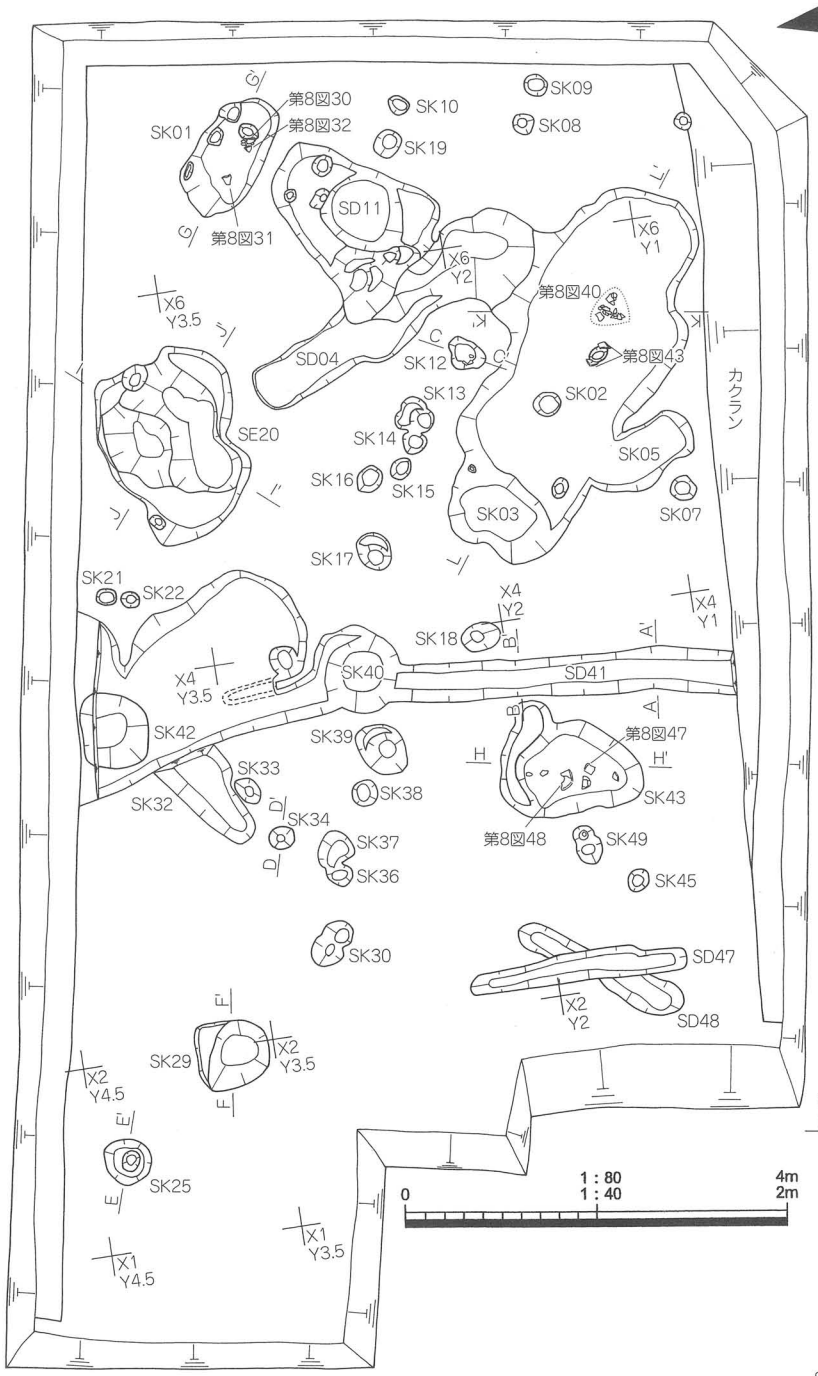
調査区の南西部に位置する東西溝である。両端とも調査区外へのび、全長約4.8ｍ、深さ12cm～36cmを測る。17号溝を掘り込んでおり、新旧関係は17号溝より新しい。断面は逆台形状を呈し、覆土は黄灰色シルトが堆積する。遺物は土師器・珠洲が出土。第12図116・117は珠洲の甕又は壷の破片。

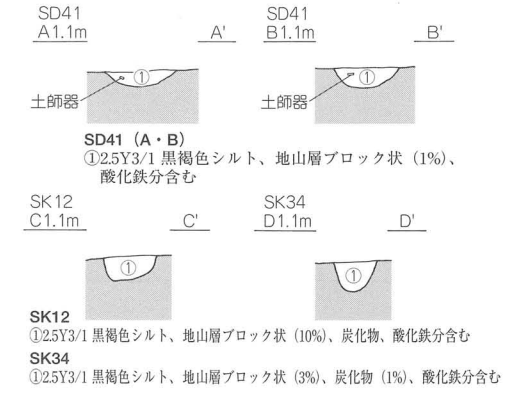
13号土坑（ＳＫ13、第10図、図版６）

調査区北西部に位置する隅丸方形の土坑である。一辺52cm～64cm、深さ30cmを測り、底面から25cm×5cm角の礎板が出土したことで柱穴と考える。10号土坑・28号土坑と共に直線上・等間隔に並ぶが、梁行きに同じ規模の土坑が確認されないため1号柵列（SB01）と考えられる。遺物は土師器が出土。

28号土坑（ＳＫ28、第10・12図、図版６・７）

調査区中央部に位置する隅丸方形の土坑である。一辺55cm～65cm、深さは最深で40cmを測り、底面に直径24cmの柱穴跡がある。古墳時代の土師器が共に出土している17号溝を掘り込むため、同時代での時期差が検証できる。新旧関係は17号溝より新しい。覆土は炭化物を含む黒褐色シルトが堆積する。

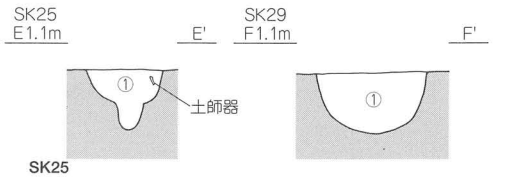




SD41（A・B）
①2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（1%）、酸化鉄分含む

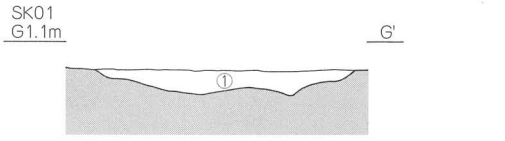
SK12
①2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（10%）、炭化物、酸化鉄分含む

SK34
①2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（3%）、炭化物（1%）、酸化鉄分含む

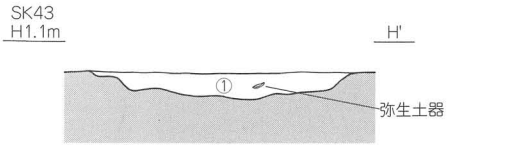


SK25
①2.5Y3/1 黒褐色シルト、酸化鉄分含む

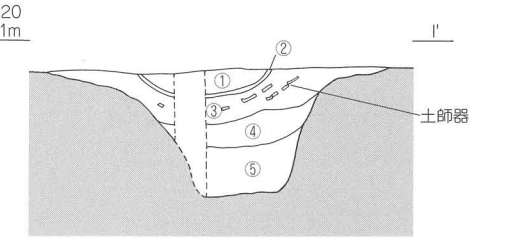
SK29
①2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（1%）、炭化物、酸化鉄分含む

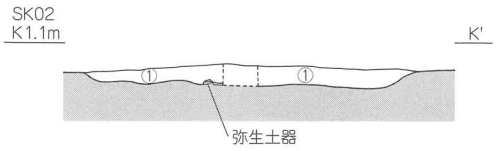


①2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（5%）、酸化鉄分含む

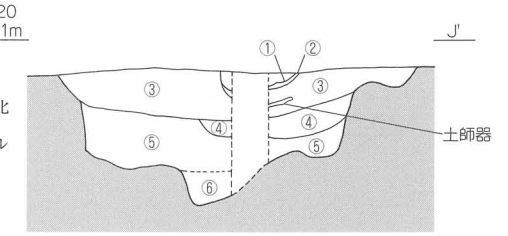


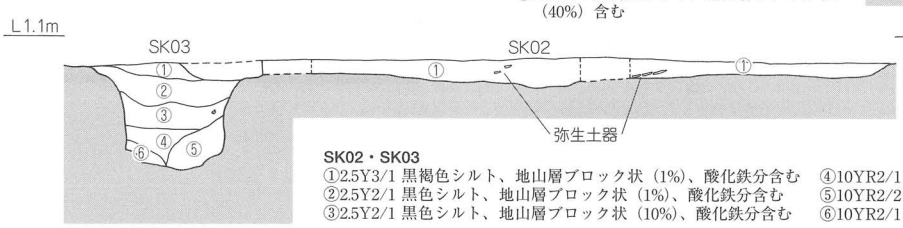
①2.5Y2/1 黒色シルト、炭化物粒状（2%）含む





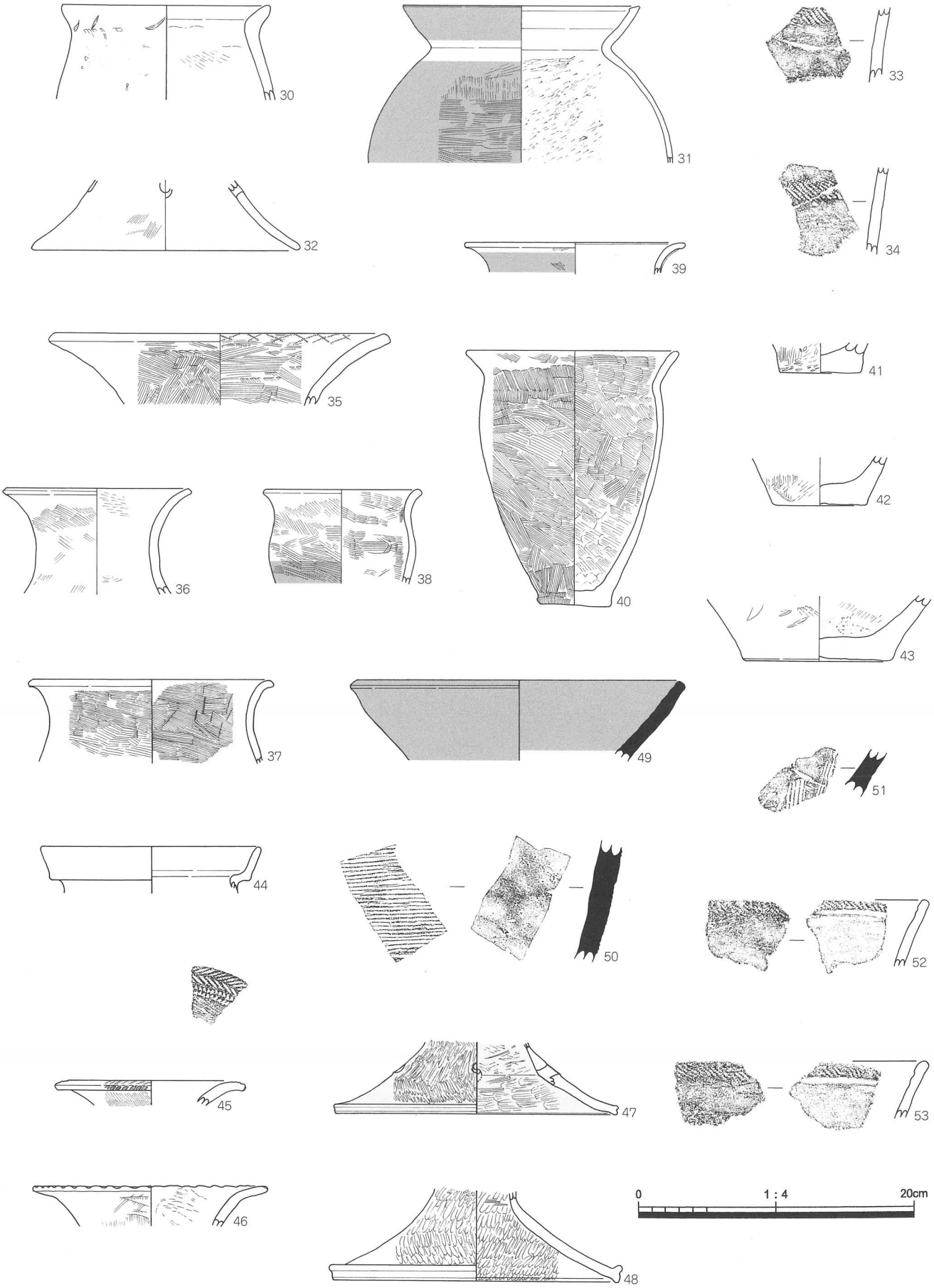
SE20
①2.5Y7/2 灰黄色砂質シルト、酸化鉄分含む
②2.5Y2/1 黒色シルト、帯状に堆積
③2.5Y3/1 黒褐色シルト、炭化物（2%）、酸化鉄分含む
④2.5Y3/1 黒褐色シルト、2.5Y6/2 灰黄色シルトブロック状（5%）、酸化鉄分含む
⑤2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（10%）含む
⑥2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（40%）含む





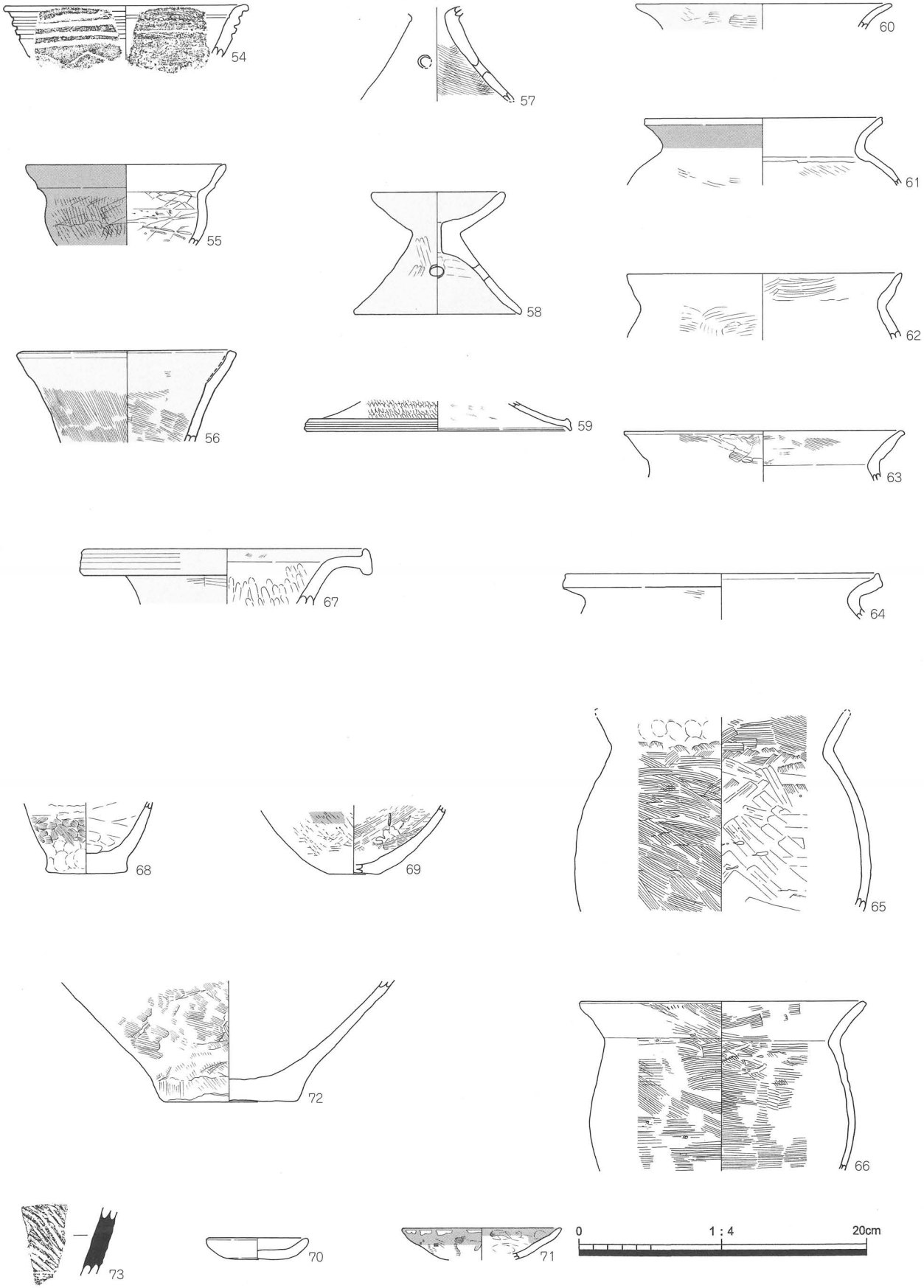
SK02・SK03
①2.5Y3/1 黒褐色シルト、地山層ブロック状（1%）、酸化鉄分含む
②2.5Y2/1 黒色シルト、地山層ブロック状（1%）、酸化鉄分含む
③2.5Y2/1 黒色シルト、地山層ブロック状（10%）、酸化鉄分含む
④10YR2/1 黒色粘質シルト、酸化鉄分含む
⑤10YR2/2 黒褐色粘質シルト、地山層ブロック状（5%）、酸化鉄分含む
⑥10YR2/1 黒色粘質シルト、地山層ブロック状（20%）、酸化鉄分含む

第７図　遺構実測図［高島Ａ遺跡８地区］（1/80、断面図1/40）



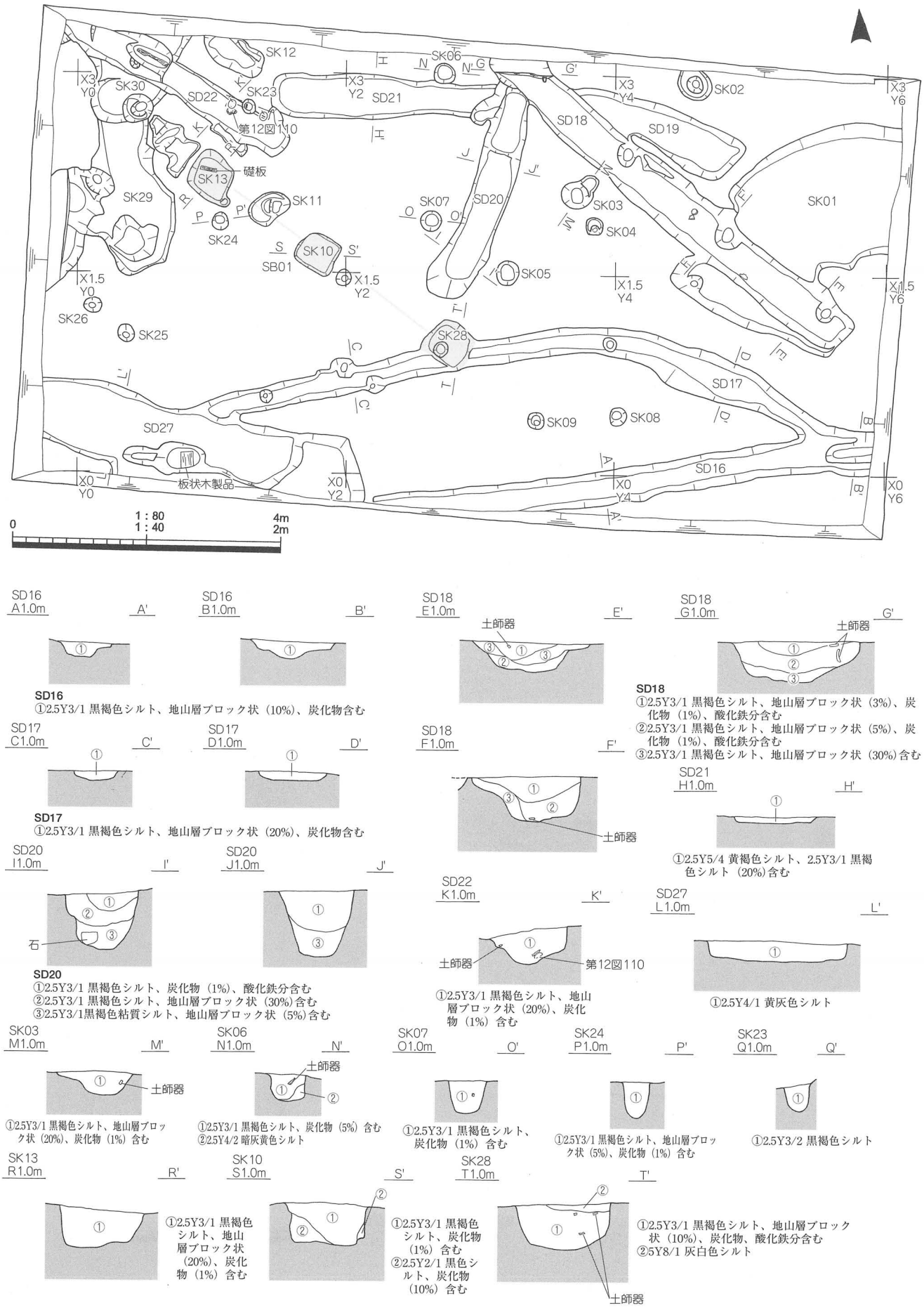
第８図　遺物実測図［高島Ａ遺跡８地区］（1/4）

SK01（30～32）　SK02（33～43）　SD41（44）　SK42（45・46）　SK43（47・48）　SK40（49・50）　SK29（51）　SD04（52）
SD11（53）

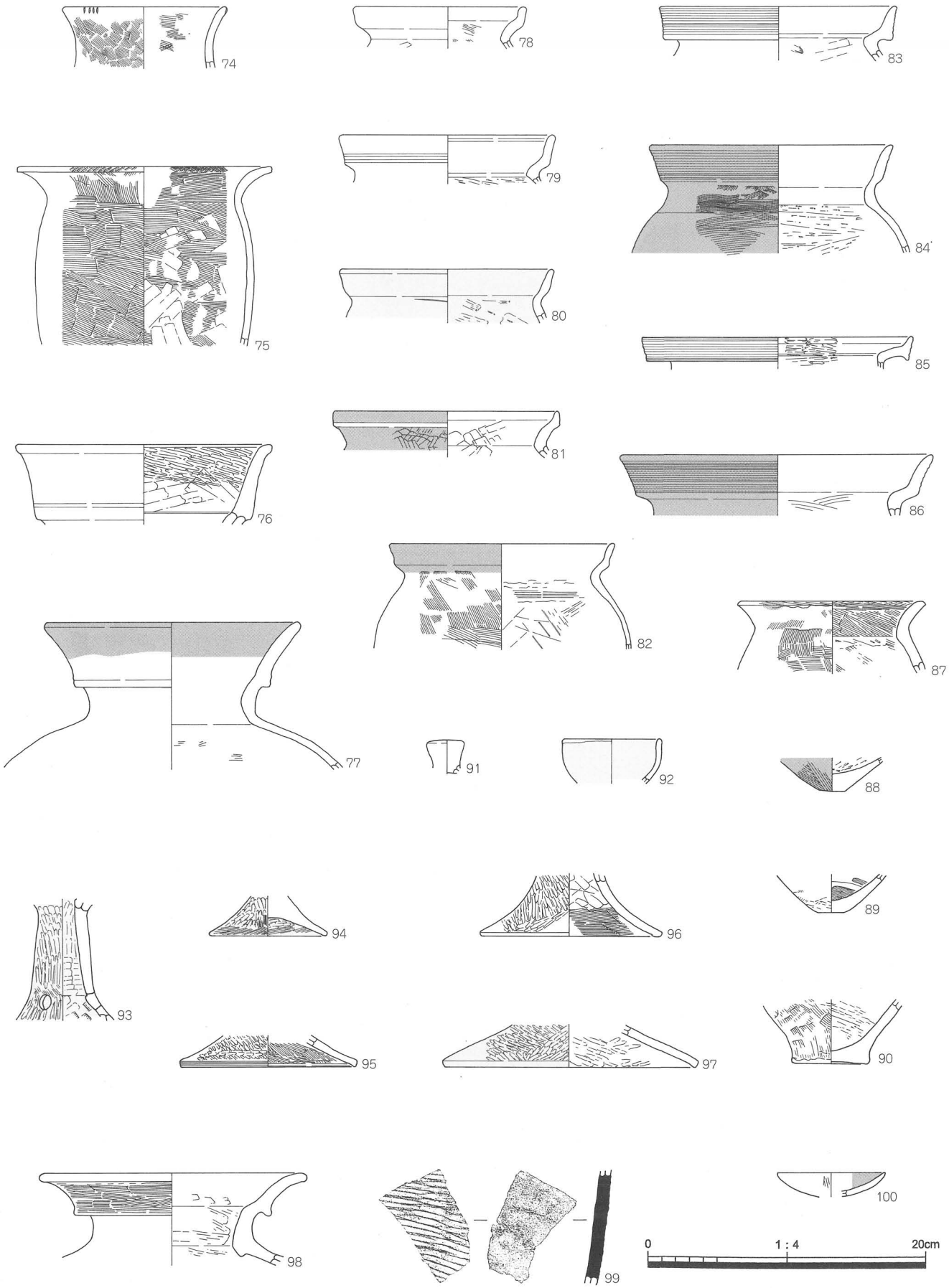


第９図　遺物実測図［高島Ａ遺跡８地区］（1/4）

SE20（54～71）　包含層（72・73）

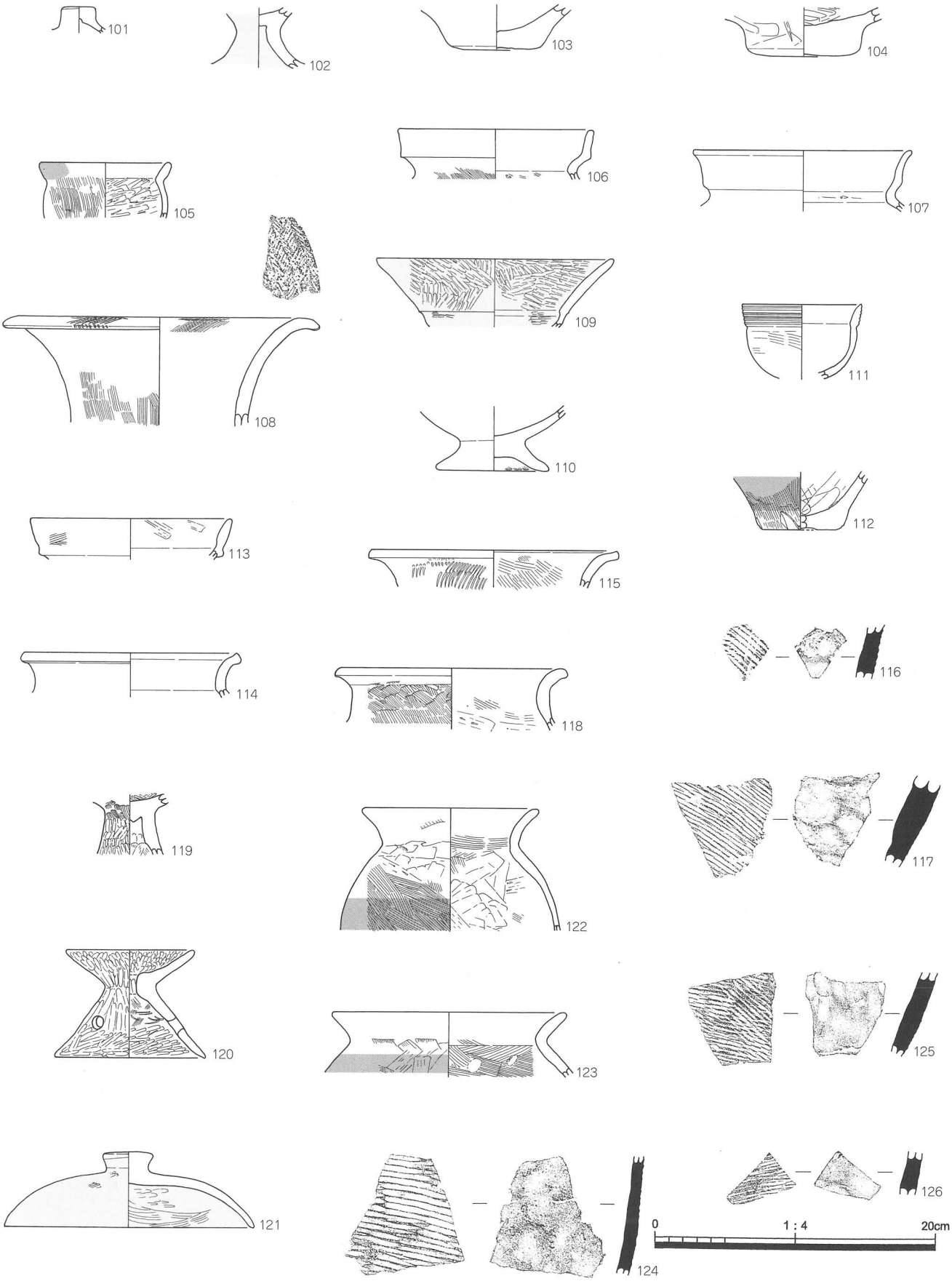


第10図　遺構実測図［高島Ａ遺跡９地区］（1/80、断面図1/40）



第11図　遺物実測図［高島Ａ遺跡９地区］（1/4）

SD18（74～97）　SD20（98～100）



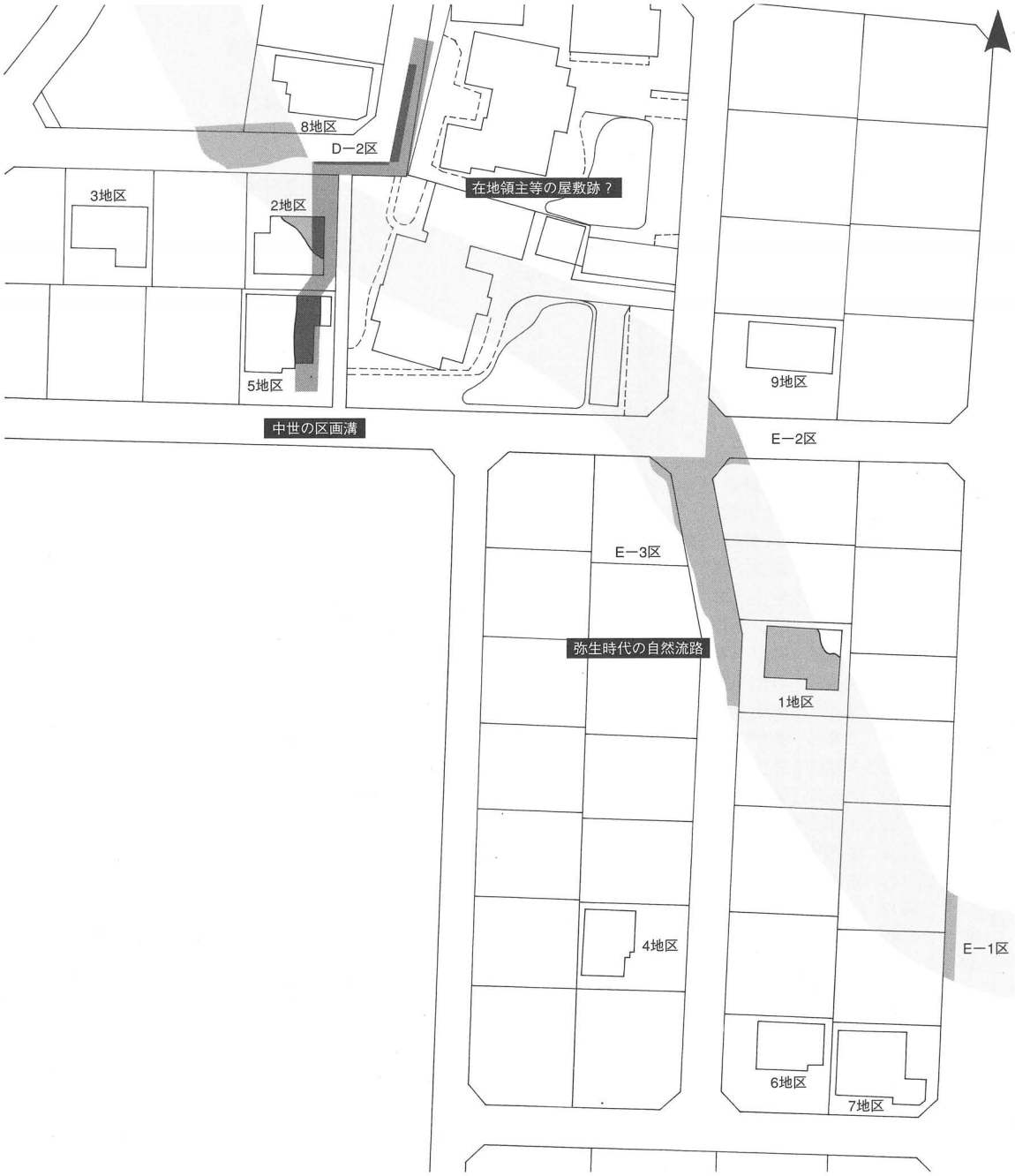
第12図　遺物実測図［高島Ａ遺跡９地区］（1/4）

SK01（101～104）　SK03（105）　SK06（106）　SD19（107）　SD22（108～112）　SD27（113～117）　SK28（118）　SK29（119～123）
包含層（124～126）

第４節　総　括

高島Ａ遺跡は、平成14年度から土地区画整理事業や個人住宅建築に伴う発掘調査が実施され、弥生～古墳時代・鎌倉～室町時代の２時期の遺構が確認されている。これらの遺構の中で広範囲に拡がるものが２つある。先ずはＤ－２区からＥ－１区へと続く弥生時代の自然流路である。幅13m～18mを測り、北西―南東方向に蛇行しながら流れる。遺物は弥生土器、時期は弥生時代中期後半から後期である。この遺構で隔てられた両岸域に弥生～古墳時代の集落跡が想定できる。次は５地区からＤ－２区へと続く鎌倉～室町時代の区画溝である。幅3.2m～3.6mを測る南北方向の直線溝で、途中直角に曲がりながら流れる。遺物は珠洲・八尾・瀬戸美濃・青磁等が出土。この遺構の区画内には在地領主等の屋敷跡が想定できる。この２つの遺構は２地区で重なっており、古墳時代以降に埋没した弥生時代の自然流路を、鎌倉時代以降に掘削し屋敷の区画溝として利用したことが考えられる。

年々進んでいく発掘調査により、遺跡の様相が少しずつ明らかになることに今後も期待したい。



第13図　弥生時代の自然流路・中世の区画溝位置図［高島Ａ遺跡］

第１表　出土遺物観察表（高島Ａ遺跡）

図版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備　考	残存量
第５図	1	ＳＤ07　７地区	土師器	壷	15.9				口1/8
	2	ＳＤ18　７地区	土師器	甕	9.7	16.2	5.3	外面煤付着	ほぼ完存
	3	ＳＫ12　７地区	土師器	高坏	17.4			内外面赤彩	口1/4
	4	ＳＫ12　７地区	土師器	高坏			11.0	外面赤彩	底1/2　脚完存
	5	ＳＫ12　７地区	土師器	鉢	13.4	7.2	7.2		口3/16　底完存
	6	ＳＫ12　７地区	土師器	甕				内外面煤付着	体下部1/3
	7	ＳＫ12　７地区	土師器	鉢	20.9				口1/2
	8	ＳＫ12　７地区	土師器	鉢	9.5	7.5		外面赤彩　内外面煤付着	完形
	9	ＳＫ12　７地区	土師器	甕	15.0			外面煤付着	口2/5
	10	ＳＫ12　７地区	土師器	甕	15.9			外面煤付着	口1/2
	11	ＳＫ12　７地区	土師器	甕	17.1			外面煤付着	口完存　体上部1/4
	12	ＳＫ12　７地区	土師器	甕	16.2			外面煤付着	口1/2　体2/3
	13	ＳＫ12　７地区	土師器	甕	18.2			外面煤付着	口3/4　体1/2
第６図	14	ＳＫ17　７地区	土師器	鉢	12.3				口1/4
	15	ＳＫ17　７地区	土師器	鉢	12.9	6.1	4.7	内外面煤付着	口1/2　底完存
	16	ＳＫ17　７地区	土師器	高坏	16.1				口1/5
	17	ＳＫ17　７地区	土師器	高坏	15.2			内外面煤付着	口1/4　坏完存
	18	ＳＫ17　７地区	土師器	壷	14.3				口1/2
	19	ＳＫ17　７地区	土師器	壷	12.4				口1/4
	20	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	13.3			外面煤付着	口1/3
	21	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	14.6			外面煤付着	口3/4　体完存
	22	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	16.3			外面煤付着	口完存
	23	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	16.8			外面煤付着	口完存
	24	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	13.6			外面煤付着	口完存
	25	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	16.9			外面煤付着	口完存
	26	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	19.4			外面煤付着　籠目痕	口1/6
	27	ＳＫ17　７地区	土師器	甕	17.1			外面煤付着　籠目痕	口1/2
	28	ＳＫ10　７地区	珠洲	甕（壷）			10.5		底3/8
	29	ＳＫ10　７地区	珠洲	片口鉢			12.9	卸目13条	底1/4
第８図	30	ＳＫ01　８地区	土師器	甕	15.0				口5/16
	31	ＳＫ01　８地区	土師器	甕	17.2			外面煤付着	口3/8
	32	ＳＫ01　８地区	土師器	高坏（器台）			脚19.3	透孔１箇所	脚1/5
	33	ＳＫ02　８地区	縄文土器					斜縄文	破片
	34	ＳＫ02　８地区	縄文土器					斜縄文	破片
	35	ＳＫ02　８地区	弥生土器	壷	24.1			格子状刻み	口1/6
	36	ＳＫ02　８地区	弥生土器	壷	13.4			口縁端部刻み	口1/12
	37	ＳＫ02　８地区	弥生土器	甕	17.5				口1/8
	38	ＳＫ02　８地区	弥生土器	甕	11.2			外面煤付着	口1/4
	39	ＳＫ02　８地区	弥生土器	甕	15.8			外面煤付着　櫛描き短線文	破片
	40	ＳＫ02　８地区	弥生土器	甕	15.2	18.9	4.9		完形
	41	ＳＫ02　８地区	弥生土器	甕（壷）			5.8		底1/2
	42	ＳＫ02　８地区	弥生土器	甕（壷）			6.8		底3/4
	43	ＳＫ02　８地区	弥生土器	甕（壷）			10.6		底3/4
	44	ＳＤ41　８地区	土師器	甕	16.0				口1/11
	45	ＳＫ42　８地区	弥生土器	壷	14.0			羽状文　三角形刺突文	口1/8
	46	ＳＫ42　８地区	弥生土器	壷	17.0			波状口縁	口3/16
	47	ＳＫ43　８地区	弥生土器	高坏（器台）			脚19.3	内外面赤彩　透孔１箇所	脚1/6
	48	ＳＫ43　８地区	弥生土器	高坏（器台）			脚22.3		脚5/8
	49	ＳＫ40　８地区	珠洲	片口鉢	23.6			内外面煤付着	口1/8
	50	ＳＫ40　８地区	珠洲	甕（壷）					破片
	51	ＳＫ29　８地区	珠洲	片口鉢					破片
	52	ＳＤ04　８地区	縄文土器					斜縄文	破片
	53	ＳＤ11　８地区	縄文土器					斜縄文	破片

口：口縁部　　底：底部　　体：体部　　坏：坏部　　脚：脚部

第２表　出土遺物観察表（高島Ａ遺跡）

図版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備　考	残存量
第９図	54	ＳＥ20　８地区	縄文土器	浅鉢	16.9			平行沈線　山形文	口1/10
	55	ＳＥ20　８地区	土師器	鉢	14.0			外面煤付着	口1/8
	56	ＳＥ20　８地区	土師器	壷	14.5			内外面赤彩	口3/8
	57	ＳＥ20　８地区	土師器	器台				透孔２箇所	脚6/8
	58	ＳＥ20　８地区	土師器	器台	9.2	8.7	脚11.7	全面赤彩　透孔４箇所	ほぼ完形
	59	ＳＥ20　８地区	土師器	高坏（器台）			脚18.6	擬凹線文	脚1/8
	60	ＳＥ20　８地区	土師器	甕	18.0			外面赤彩	口3/16
	61	ＳＥ20　８地区	土師器	甕	16.6			外面煤付着	口1/6
	62	ＳＥ20　８地区	土師器	甕	19.2				口1/12
	63	ＳＥ20　８地区	土師器	甕	19.6				口1/5
	64	ＳＥ20　８地区	土師器	甕	21.9				口1/7
	65	ＳＥ20　８地区	土師器	甕					体上部1/4
	66	ＳＥ20　８地区	土師器	甕	19.7				口1/4
	67	ＳＥ20　８地区	土師器	壷	19.7			内外面赤彩	口1/6
	68	ＳＥ20　８地区	土師器	甕			5.7	指頭圧痕	底完存
	69	ＳＥ20　８地区	土師器	甕			3.5	外面煤付着	底3/4
	70	ＳＥ20　８地区	中世土師器	皿	6.8	1.5	4.8		口1/4
	71	ＳＥ20　８地区	中世土師器	皿	11.2			外面炭化物付着	口1/2
	72	包含層　８地区	土師器	甕（壷）			9.4		底完存
	73	包含層　８地区	珠洲	甕（壷）					破片
第11図	74	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	11.6			口縁端部刻み	口1/6
	75	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	18.2			口縁端部刻み　羽状文	口1/12
	76	ＳＤ18　８地区	土師器	壷	18.3				口1/3
	77	ＳＤ18　８地区	土師器	壷	18.3			内外面煤付着	口1/2
	78	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	12.1				口1/6
	79	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	15.4				破片
	80	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	15.2			内外赤彩	口1/3
	81	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	16.2			外面煤付着	口1/8
	82	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	15.1			外面煤付着	口1/4
	83	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	17.0			擬凹線文	破片
	84	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	17.5			擬凹線文　外面煤付着	口1/3
	85	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	19.5			擬凹線文	破片
	86	ＳＤ18　８地区	弥生土器	甕	22.4			擬凹線文　外面煤付着	破片
	87	ＳＤ18　８地区	土師器	甕	13.2			外面煤付着	口1/6
	88	ＳＤ18　８地区	土師器	甕			2.0	外面煤付着	底完存
	89	ＳＤ18　８地区	土師器	甕			2.3		底1/4
	90	ＳＤ18　８地区	土師器	甕（壷）			5.5		底完存
	91	ＳＤ18　８地区	土師器	蓋				つまみ径2.8	破片
	92	ＳＤ18　８地区	土師器	鉢	6.7			内外面赤彩	口1/2
	93	ＳＤ18　８地区	土師器	器台				内外面赤彩　透孔３箇所	脚基部2/3
	94	ＳＤ18　８地区	土師器	高坏			脚8.2	内外面赤彩	脚完存
	95	ＳＤ18　８地区	土師器	高坏（器台）			脚12.5		脚1/5
	96	ＳＤ18　８地区	土師器	高坏（器台）			脚12.8		脚1/8
	97	ＳＤ18　８地区	土師器	高坏（器台）			脚18.0	外面赤彩	脚1/3
	98	ＳＤ20　８地区	土師器	壷	18.6				口1/3
	99	ＳＤ20　８地区	珠洲	甕（壷）					破片
	100	ＳＤ20　８地区	中世土師器	皿	7.8			内面煤付着	口1/4
第12図	101	ＳＫ01　９地区	土師器	蓋				つまみ径2.5	破片
	102	ＳＫ01　９地区	土師器	高坏				内外面赤彩	破片
	103	ＳＫ01　９地区	土師器	甕（壷）			6.6		底ほぼ完存
	104	ＳＫ01　９地区	土師器	甕（壷）			8.2		底1/2
	105	ＳＫ03　９地区	土師器	甕	9.0			外面煤付着	口1/5
	106	ＳＫ06　９地区	土師器	甕	13.7				破片

口：口縁部　　底：底部　　体：体部　　坏：坏部　　脚：脚部

第３表　出土遺物観察表（高島Ａ遺跡）

図版	No.	遺構・出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備　考	残存量
第12図	107	ＳＤ19　９地区	土師器	甕	15.6				破片
	108	ＳＤ22　９地区	弥生土器	壷	20.4			口縁端部刻み　羽状文	口1/5
	109	ＳＤ22　９地区	土師器	高坏	16.8			内外面赤彩	口1/8
	110	ＳＤ22　９地区	土師器	高坏			脚7.5		脚完存
	111	ＳＤ22　９地区	土師器	鉢	8.5			擬凹線文	口1/4
	112	ＳＤ22　９地区	土師器	甕（壷）			5.8	外面煤付着	底2/5
	113	ＳＤ27　９地区	土師器	甕	14.4				口1/6
	114	ＳＤ27　９地区	土師器	甕	15.2				破片
	115	ＳＤ27　９地区	土師器	甕	17.5				口1/8
	116	ＳＤ27　９地区	珠洲	甕（壷）					破片
	117	ＳＤ27　９地区	珠洲	甕（壷）					破片
	118	ＳＫ28　９地区	土師器	甕	15.9				口1/6
	119	ＳＫ29　９地区	土師器	高坏				内面黒色	破片
	120	ＳＫ29　９地区	土師器	器台	9.1	7.8	脚10.7	一部外面赤彩　透孔３箇所	口1/3　脚3/5
	121	ＳＫ29　９地区	土師器	蓋	18.0	5.4		つまみ径3.6　内外面赤彩	口1/3
	122	ＳＫ29　９地区	土師器	甕	12.3			外面煤付着	口1/5
	123	ＳＫ29　９地区	土師器	甕	16.4			外面煤付着	口1/3
	124	包含層　９地区	珠洲	甕（壷）					破片
	125	包含層　９地区	珠洲	甕（壷）					破片
	126	包含層　９地区	珠洲	甕（壷）					破片

口：口縁部　　底：底部　　体：体部　　坏：坏部　　脚：脚部

参考文献

金三津英則他　2006年『高島Ａ遺跡発掘調査報告書－鏡宮高島土地区画整理事業に伴う発掘調査－』射水市教育委員会
金三津英則他　2006年『作道遺跡発掘調査報告－市道松木作道線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－』射水市教育委員会
金三津英則他　2007年『高島Ａ遺跡発掘調査報告－射水市立新湊南部中学校用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－』射水市教育委員会
田中　明他　2010年『射水市内遺跡発掘調査報告Ⅱ－高島Ａ遺跡・松木遺跡・干田遺跡本発掘調査他－』射水市教育委員会
田中　明他　2011年『射水市内遺跡発掘調査報告Ⅲ－高島Ａ遺跡本発掘調査・土合地区分布調査他－』射水市教育委員会

第３章　広上地区分布調査

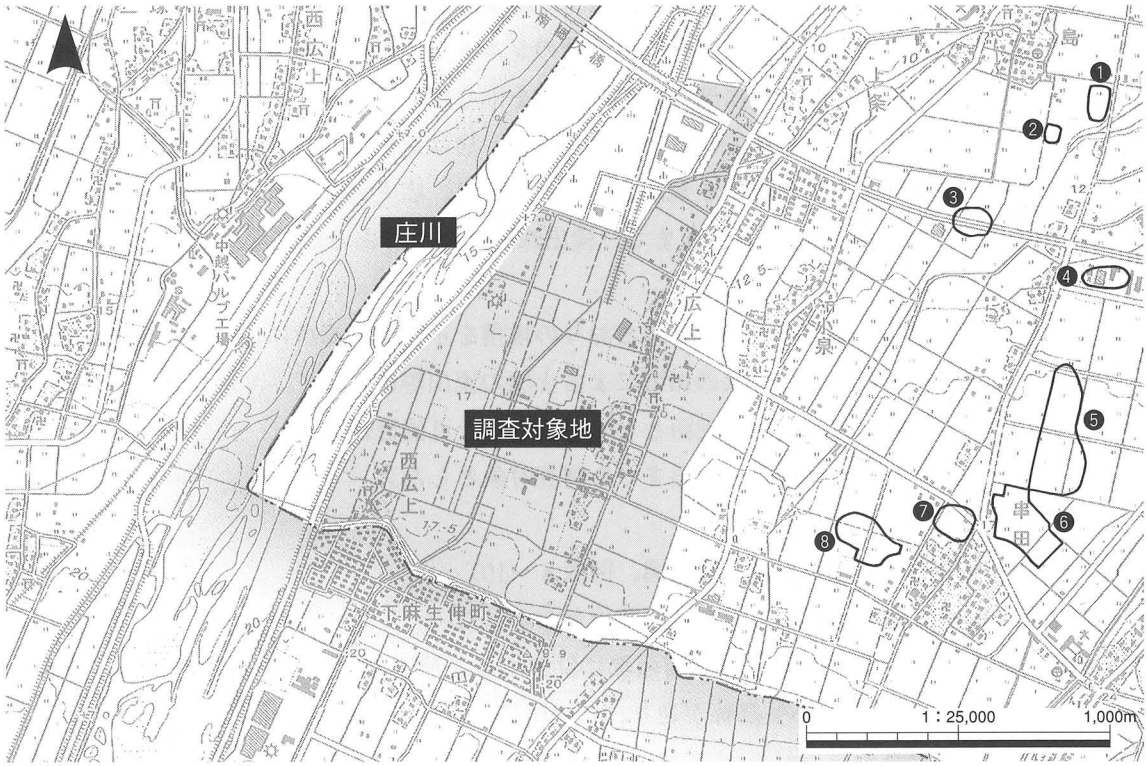
第１節　調査に至る経緯と調査の経過

平成21年10月、富山県高岡農林振興センターから、射水市広上地区（広上・西広上地区）における県営ほ場整備事業の実施に係る事前協議を受けた。事業は、平成23年度から28年度までの６か年計画であり、地区内の農道・用排水路等の撤去・新設及び水田の切土・盛土を含み、大区画ほ場へ整備する工事である。

広上地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていなかった。これは地区の大部分が埋蔵文化財調査の未了区域であったためである。しかし、広上地区は、鎌倉時代中期にその名が現れ、同地区にある広上神社には、射水市指定文化財である「木造男神像」が伝えられるなど、中世以来の歴史を持つ地域である。そのため、事業計画地全域を対象とした分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の有無を確認した上で、事業計画と埋蔵文化財の保護との調整を図る必要があった。

広上地区は、庄川に隣接するという立地上、度々の洪水による地形の改変が頻繁に発生しており、昭和９年（1934）の庄川洪水後には、土壌の移動や客土を伴う大規模な耕地復旧事業が実施された。そのため、通常の分布調査で用いられる地表面採集遺物の分布や現況地形の観察のみでは土地本来の状況を把握することが困難である。そこで、現地踏査に加えて小規模なトレンチ発掘を併用した調査を実施し、表面採取による遺物の分布状況と、旧地形や堆積土壌等の地形状況を併せて確認することで、必要な情報精度を確保することとした。

関係者との協議の結果、平成22年度の耕作完了後に射水市教育委員会が主体となって分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の範囲を確定した上で、次年度以降に試掘調査を実施することとなった。



第14図　調査対象地及び周辺の遺跡（1：25,000）
❶島鉾田遺跡　❷島鉾田南遺跡　❸小泉遺跡　❹牧田遺跡　❺布目沢Ⅱ遺跡　❻串田東前田遺跡　❼串田村中遺跡
❽串田西前田遺跡

現地調査にあたり、平成22年10月18日に、地元ほ場整備事業推進委員会及び事業関係者に対する分布調査実施と調査方法等についての事前説明を行った。現地調査は、平成22年10月29日から11月24日にかけて実施した。

第２節　調査の方法

調査対象範囲は、ほ場整備事業計画区域約72.6haの全域とし、地表面の踏査による遺物の採取と現況地形の確認に加え、小型のバックホウを使用した幅約0.6m、長さ1.2m～2.3mのトレンチ（以下Ｔと略す）発掘を実施し、地下の旧地形や土壌の堆積状況をあわせて確認した。

トレンチは、概ね水田３～５枚に１箇所の割合で任意に設定した。掘削の深度は、遺構面と考えられる層、または広上地区一帯に広く分布する砂礫層に到達するまでとし、遺構・遺物の有無を確認するとともに、実測及び写真撮影により土壌堆積状況の記録を作成した。また、バックホウの進入が困難な場所において、直径約６cmのボーリングステッキを用いた簡易ボーリング調査を19箇所で実施し、地形・堆積土壌確認の補足資料とした。

掘削したトレンチは計153箇所で、総発掘面積は約151㎡である。

第３節　調査の概要

第１項　基本層序

基本層序は上層から順に、Ⅰ層：黒褐色・暗灰黄色粘質土、Ⅱ層：暗オリーブ灰色粘質土・褐色砂礫等、Ⅲ層：黒色・黒褐色シルト、Ⅳ層：暗灰黄色・灰色砂、Ⅴ層：にぶい黄色・黄褐色・灰色シルト、Ⅵ層：黄褐色・暗灰黄色砂礫となる。

Ⅰ層は、現在の水田耕土である。Ⅱ層は、近代以降の堆積土及び造成土等の人為的堆積層を一括したものであり、砂質土・粘質土・砂・砂礫等、様々な堆積土からなる。

Ⅲ層以下は自然堆積層である。Ⅲ層は、黒色系統のシルト層である。Ⅳ層は、粗砂・微砂等の堆積層を一括したもので、Ⅴ・Ⅵ層の検出深度が深い場所を中心に堆積する。

Ⅴ・Ⅵ層は、地山と考えられる層である。このうち、Ⅴ層は遺構面と想定しているシルト層であり、場所や地表からの深さによって色調や土質が異なる。Ⅵ層は、広上地区一帯に広く分布する砂礫層であり、水田耕土直下から地表下1.4m付近まで、検出深度は様々である。Ⅵ層直上の堆積層には、土質にかかわらず大小の礫を含むことが多い。

なお、Ⅴ層が堆積する範囲では、基本層序どおりの堆積を示すが、場所によってはⅤ層が堆積せず、Ⅲ・Ⅳ層直下にⅥ層が堆積する。洪水の影響による土壌の流出等によって、Ⅴ層が安定して堆積しない場所もあり、Ⅴ・Ⅵ層が同時期に地表面として現れていた可能性がある。

トレンチ掘削では、Ⅴ層又はⅥ層の検出までを調査対象とした。

第２項　遺構・遺物及び地形の状況（第15図、図版８～10）

調査の結果、埋蔵文化財包蔵地の所在は確認できなかった。

広上地区は庄川右岸に面した射水市の南西部に位置する。地区の範囲は、東西約1.0㎞、南北約1.9㎞余りで、中央には県道高岡･小矢部線が通り、この県道に沿って南北に集落が連なっている。

標高は、地区東部の高岡市境付近が18.1m、土合地区との境界付近が10.3mとなり、地区の南北で約８mの比高差がある。東西方向は、地区の西端から中部にかけては比較的平坦であるが、地区中央部から東端部の串田地区境界付近に向かって標高が低くなる。串田地区に至ると、標高は再び１m程

度高まり、県道東部の水田部が地区境界に沿って南北に低く落ち込んだ地形となっている。

地区の土層堆積状況を概観すると、まず、全域に基盤層となるⅥ層の砂礫が堆積する。県道を中心として、東西にそれぞれ１箇所ずつ、Ⅴ層のシルト層堆積範囲が南北方向の帯状に広がる。Ⅴ・Ⅵ層からⅠ層の耕土の間には、Ⅱ～Ⅳ層が堆積するが、Ⅵ層の出現深度が浅い場所が多々あり、そのような場所では、中間層が存在せず耕土直下でⅤ・Ⅵ層が現れる。

なお、隣接する串田・土合地区をはじめとする近隣の調査結果から、Ⅴ層のシルト層が安定して堆積している点を、埋蔵文化財包蔵地の存在を推定する一つの指標としている。

県道の西側では、第15図中Ａの範囲（82・85・86・88・90・93・95・115～117・121～125Ｔを結んだ範囲）にⅤ層のシルト層が分布する。しかし、大部分のトレンチでは、Ⅴ層の厚さが10cm程度で不安定な堆積状況にあり、123Ｔでは耕土直下にⅥ層の礫層が現れる。また周辺では、Ⅵ層がこのⅤ層よりも浅い場所に現れる傾向がみられ、砂層（Ⅳ層）の堆積を伴う範囲とも重複すること、その範囲が帯状に蛇行した形となることから、旧河川跡等の窪地に埋土として堆積したと考えられる。

県道の東側では、地区の中央部から東部に位置する第15図中Ｂの範囲（15・16・18・24～29・34・35・126・127・140・141・144・145・148Ｔを結んだ範囲）にⅤ層のシルト層が分布する。

このうち、串田地区との境界付近では、シルト層が灰色で粘性の強い土質となり、低湿地の様相を呈する。一方で、地区中央部の24～28・35・141・144・145Ｔの範囲では、砂質でしまりのよい黄褐色シルトが安定して堆積する。

遺構は、地区全域において確認できなかった。遺物は、78・138ＴのⅡ層中から、それぞれ近代の瓦片が1点ずつ出土しただけである。

地表面踏査では、Ⅴ層のシルト層堆積範囲を中心に、僅かながら遺物の散布が認められる。35・151Ｔ付近では古代の須恵器片を1点ずつ採取しているが、共に客土の存在が認められる場所での採取であり、当地に帰属する遺物ではない。その他の採取遺物は、江戸時代以降の陶磁器が中心であり、大部分が明治時代以降のものである。

遺物は、現広上集落に沿った形で南北に細長く点在しており、特定の時代や特定場所での集中傾向は認められない。集落域を離れた、庄川付近では、遺物の散布は皆無であった。

第３項　歴史的環境と調査のまとめ

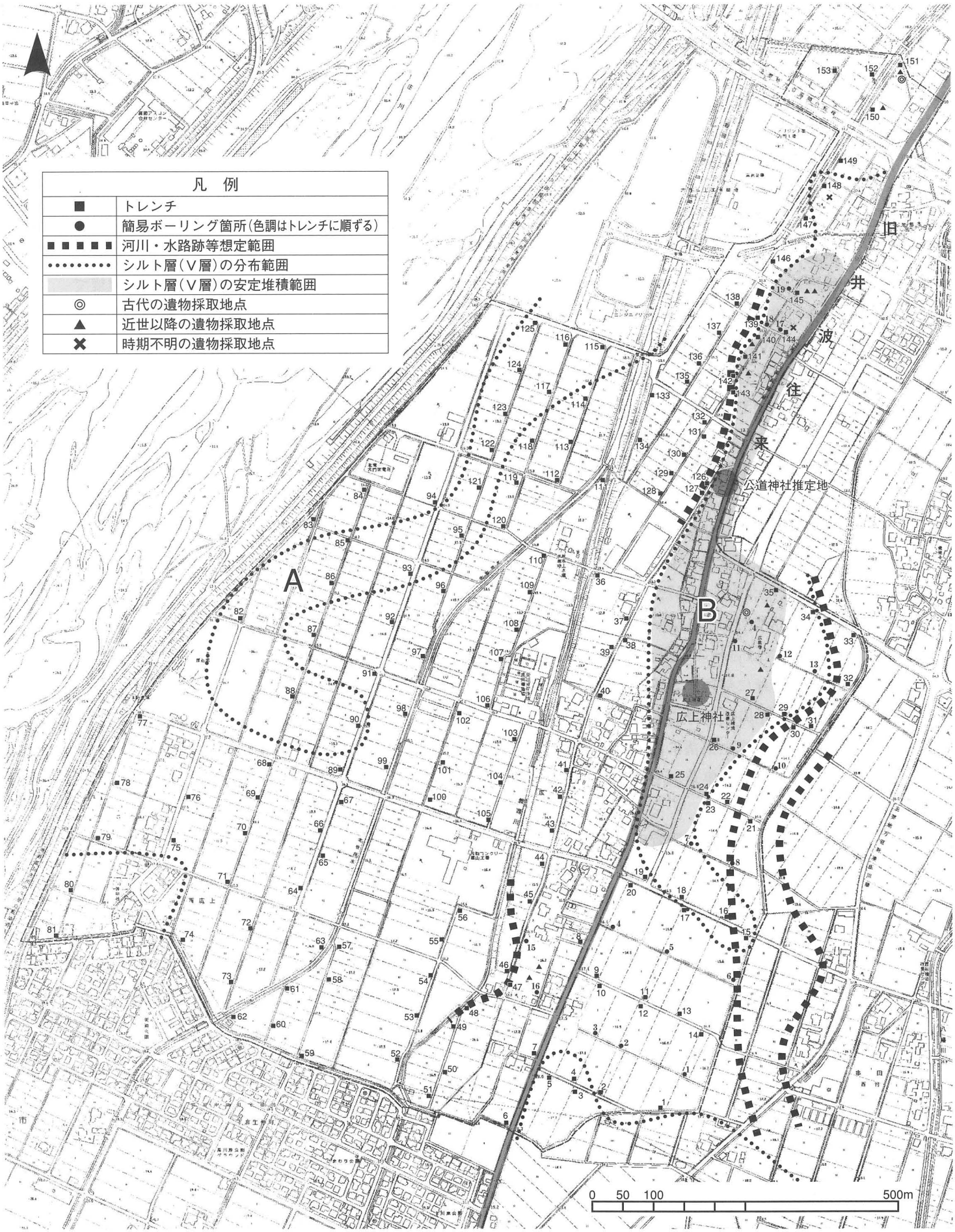
広上地区は、明治22年（1889）の町村分合によって誕生した旧浅井村に含まれる。旧浅井村は、広上地区及び土合・小泉・上条・下条・島・堀之内村から成り、このうち広上・小泉・上条・下条・島の５か村は「浅井郷五ヶ村」と称され、中世以前から存在していた。

歴史上に「広上」の地名が現れるのは、鎌倉時代中期の文永７年（1270）である。『秦守高多烏浦立始次第注進状』によると、「ひろかミ（広上）」から、「越中国般野（般若）」・「あさい（浅井）」とともに、若狭小浜の西津湊を経由して京都へ年貢米を送っていた。また、建武３年（1336）には、京都勧修寺の寺領として「越中国浅井弘上庄」の名が見える（「光厳上皇院宣并目録案」）。

当時の弘上庄は、現在の庄川左岸に位置する高岡市西広上地区までを含む広大な範囲であった。承応元年（1652）の庄川洪水の際には、広上地区の西を流れる庄川が流入して地区を東西に分断する格好となり、その結果、広上地区は庄川左岸の西広上村と右岸の東広上村とに分かれ、現在に至っている。

中世以前の広上集落の状況を直接的に示す史料は、現在のところ知られていない。現在の集落中央に位置する広上神社の社伝によると、かつて広上には公道神社と呼ばれる古社があった。

公道神社は、平安時代末期の創建とされ、戦国時代には増山城主神保氏の崇敬厚く社領60石の奉納



第15図　分布調査の結果

があったが、戦国時代に越後勢の兵火によって焼失したと伝えられる。その後、社地跡には旧社名の小社が再興されたが、昭和２年（1927）に現在の広上神社に合祀された。

広上神社は、公道神社社家の持宮であった八幡宮を、天正18年（1590）以降に広上村の鎮守としたものと伝えられ、大正５年（1916）に現在の名称に改称された。現在、広上神社に安置されている射水市指定文化財「木造男神像」他12体の中には、平安時代末期から南北朝時代にかけての作品を複数含むが、これらの神像は、もとは公道神社に祭られていたが、戦国時代に同社が焼失した際、難を逃れて広上神社に移されたとされる。

広上神社・公道神社は、歴史的にも広上地区の変遷と深く関わり、この二社を中心として広上集落が形成されていたと考えられる。

公道神社の所在地については現在でも明らかではないが、石黒信由が文政10年（1827）に作成した庄川右岸の用水絵図（財団法人高樹会蔵）には、現在の広上神社北方に「古宮」と記された場所が見える。この「古宮」の位置は、今回調査を実施した126Ｔの東側に相当し、旧地形の状況から見ると、地形的に広上地区内で最も安定した場所となっている。また、付近には、「公道」の地名と共に、古社が所在したという伝承が残されており、この場所が公道神社推定地の一つとして挙げられる。

公道神社の推定地及び広上神社は、県道高岡･小矢部線沿いに位置しているが、現集落もまた、この県道に沿って南北に展開している。現在の県道高岡･小矢部線は、庄川右岸の大門から高岡市中田地区を結ぶ江戸時代の「井波往来」を基本的に踏襲している。

井波往来は、前出の『秦守高多烏浦立始次第注進状』に、般野（般若）･ひろかミ（広上）･あさい（浅井）と併記されていることから、庄川右岸に位置するこの三地区を南北に結ぶ街道として、遅くとも鎌倉時代中期には、その原形となる街道が存在していたと考えられる。

江戸時代においても、現在の広上集落にあたる東広上村は、この井波往来沿いに位置している。地形的に最も安定した場所であったが故に、この場所が街道筋として選定され、集落も街道沿いに展開していったのであろう。逆に、街道から離れれば離れるほど、洪水等の影響を受けやすい不安定な地形となることから、近世以前の広上集落についても、公道神社推定地から広上神社にかけての県道沿いにその範囲を想定することができる。

以上、伝承・古絵図・地形状況から、近世以前の広上集落範囲は、井波往来を踏襲した県道高岡・小矢部線に沿った、現在の広上集落と重複して存在する可能性が高いといえる。

従って現在の広上集落は、井波往来沿いに形成された集落が、中・近世を通じて拡大発展したと評価できる。集落が廃絶せず、現在まで限られた土地を継続的に改変・使用しているため、今回の調査では、埋蔵文化財包蔵地として捉えうる遺構・遺物が確認できなかったと考えられる。

参考文献

大門町　1981年『大門町史』
大門町　1994年『大門町歴史の道調査報告書』
大門町　2005年『大門町史続巻』
射水地区広域圏事務組合　2000年『いみずの神社・寺院』

第４章　その他の遺跡調査

平成22年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、分布調査１件・試掘調査13件・本発掘調査３件・工事立会12件であった。傾向としては、試掘調査件数が昨年度比較で３割減少、調査原因の駐車場造成がその３割を占める結果となった。開発への対応では、２件の試掘調査で遺跡の広がりが確認されたが、工法によって遺跡の保護措置がとられ本発掘調査の必要はなくなった。

分布調査

No.	所在地	原因	調査期間	対象面積	種別	現況	採集遺物	開発への対応
1	広上地区	県営ほ場整備事業	H22.10.29～11.24	726,000㎡	未踏査地	標高10～18mの水田		支障なし
計	1件	対象面積　726,000㎡						

試掘調査

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	開発への対応
1	小林 211440	小林241－1外4筆	宅地造成	H22.4.5	1,194㎡	46.2㎡	集落	溝・土坑	弥生土器	工法によっては本発掘調査必要
2	今井二島 211043	今井441番	資材置場造成	H22.5.7	521㎡	40.6㎡	散布地	溝		支障なし
3	田町 211078	三ケ958番1	個人専用 住宅建築	H22.6.10	237㎡	27㎡	散布地	溝・土坑		支障なし
4	三ケ 211075	三ケ1176番1外2筆	知的障害者 拠点施設建設	H22.6.18	1,091.8㎡	20.5㎡	散布地			支障なし
5	八塚Ａ 211447	八塚字川田367－1 外3筆	集合住宅建築	H22.8.18	412.18㎡	18.8㎡	散布地 集落			支障なし
6	三ケ 211075	三ケ1180番1	宅地造成	H22.8.30・31	3,278.02㎡	110.7㎡	散布地		古墳土師器	支障なし
7	新屋敷 211325	青井谷808外5筆	駐車場造成	H22.10.14・15	6,601㎡	444.6㎡	散布地		古代須恵器	支障なし
8	日宮城跡 211149	日宮字寺山88－1 外1筆	駐車場造成	H22.11.16	284㎡	6.4㎡	集落 城館			支障なし
9	黒河南 211127	黒河字竹山3251－2 外2筆	福祉施設建設	H22.11.24	2,001.42㎡	31㎡	散布地	溝・土坑		支障なし
10	本江宮田 211410	大門本江614－7 外1筆	個人専用 住宅建築	H22.11.25	247.05㎡	18.2㎡	散布地	溝		支障なし
11	朴木Ｃ 211044	朴木67番1	駐車場造成	H22.12.1	2,583㎡	61.7㎡	散布地			支障なし
12	朴木Ｃ 211044	松木19番4	駐車場造成	H22.12.8	783㎡	49.6㎡	散布地	溝・土坑	古墳土師器 中世珠洲	工法によっては本発掘調査必要
13	八塚Ａ 211447	八塚字川田336－1 外2筆	個人専用 住宅建築	H23.3.29	237㎡	11.9㎡	散布地 集落			支障なし
計	10遺跡13件	対象面積　19,470.47㎡　　発掘面積　887.2㎡								

本発掘調査

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物
1	高島Ａ 211027	鏡宮弥生2丁目100	個人専用 住宅建築	H22.5.27～6.9	111㎡	集落 散布地	弥生溝・弥生土坑・古墳土坑・古墳井戸・中世溝・中世土坑	弥生土器・中世珠洲・中世八尾
2	高島Ａ 211027	鏡宮弥生2丁目65番	個人専用 住宅建築	H22.6.28～7.22	102㎡	集落 散布地	弥生溝・弥生土坑・古墳土坑・古墳井戸・中世溝	古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲・近世唐津・近世煙管・木製品
3	高島Ａ 211027	鏡宮弥生2丁目81番地	個人専用 住宅建築	H22.7.23～8.18	92㎡	集落 散布地	弥生溝・弥生土坑・古墳土坑・古墳柵列・中世溝	古墳土師器・中世珠洲・中世青磁・中世瀬戸美濃・中世八尾・鉄滓・土錘・木製品
計	1遺跡3件	発掘面積　305㎡						

第４表　平成22年度　埋蔵文化財発掘調査一覧

❶～⓭は第４表試掘調査の番号を示す。

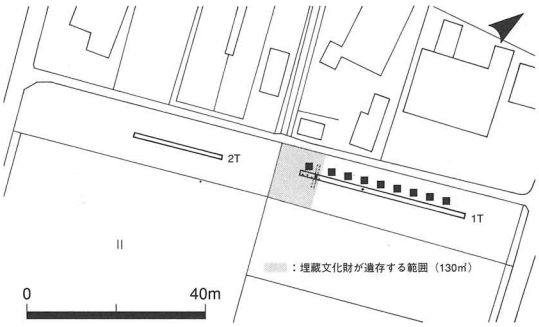
第16図　試掘調査位置図

第１節　平成22年度試掘調査概要

１．小林遺跡（第17図、図版11）

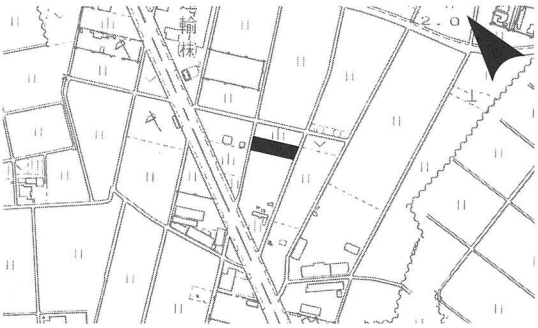
所　在　地　射水市小林241－1　外４筆
調査期間　平成22年４月５日
調査面積　対象面積：1,194㎡　発掘面積：46.2㎡
調査原因　宅地造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　弥生時代：溝１条・土坑５基
出土遺物　弥生土器

調査概要　対象地は標高約５ｍに位置する。土層は上から１層が造成盛土、２層が旧水田耕土、３層が黒褐色（2.5Y3/1）の自然堆積土、４層が灰オリーブ色シルト（5Y5/2）の地山である。検出した遺構から弥生土器が出土。埋蔵文化財遺存範囲内（130㎡）において、現地表下１ｍ以上の掘削を伴う工事等を施工する場合は、記録保存が必要である。

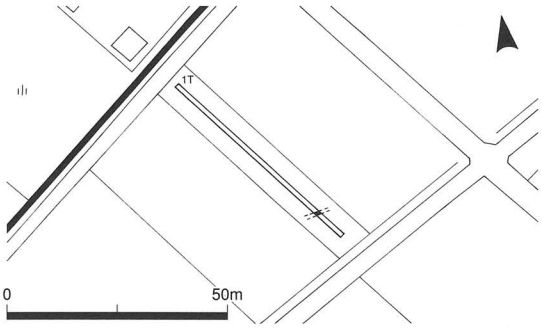


２．今井二島遺跡

所　在　地　射水市今井441番
調査期間　平成22年５月７日
調査面積　対象面積：521㎡　発掘面積：40.6㎡
調査原因　資材置場造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　時期不明：溝１条
出土遺物　なし

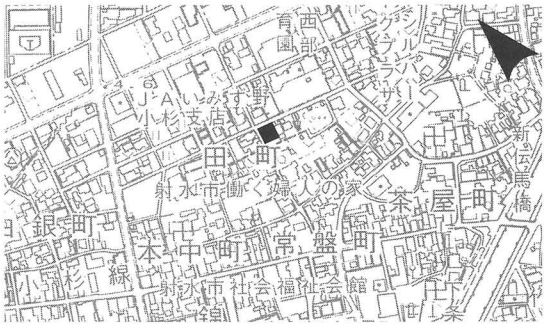


調査概要　対象地の現況は水田で、標高約２ｍに位置する。土層は３層に細分され、地山は灰黄色（2.5Y7/2）シルトである。この遺跡は、過去３度の試掘調査を実施しているが、全てに遺構・遺物がなく、遺跡の広がりは確認されていない。今回も埋蔵文化財の遺存が確認できなかった結果を踏まえ、埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が必要と考える。

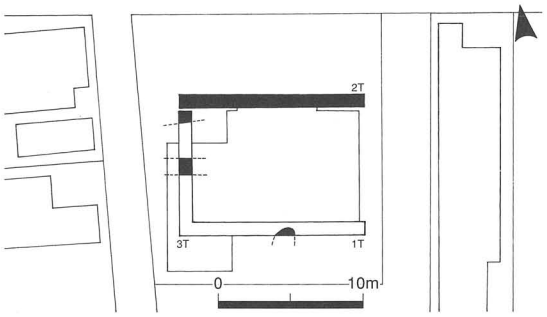


3．田町遺跡

所　在　地　射水市三ケ958番1
調査期間　平成22年６月10日
調査面積　対象面積：237㎡　発掘面積：27㎡
調査原因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　時期不明：溝２条・土坑１基
出土遺物　なし

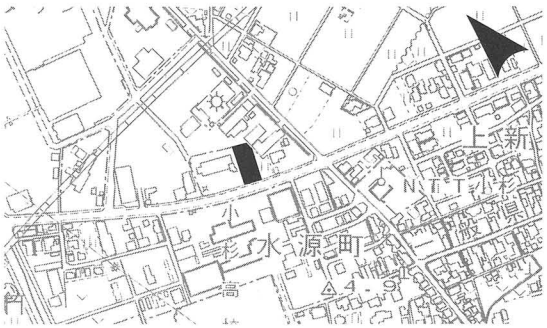


調査概要　対象地は遺跡の北東端に位置し、南方約10mには市指定史跡「射水・砺波郡奉行所跡」の石碑が残る場所である。遺構からは出土遺物もなく、時期の特定には至らなかったが、覆土の堆積状況を見る限りでは近代以降のものと考えられる。また、江戸時代の奉行所に関連した建物遺構も想定したが、当該期の遺構・遺物も確認できなかった。

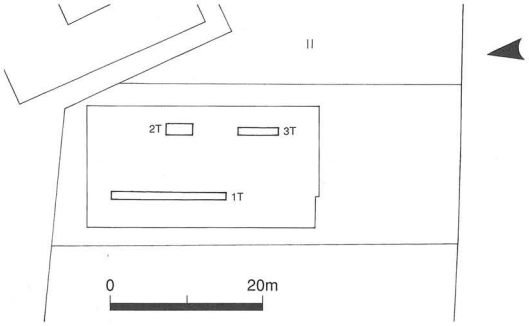


4．三ケ遺跡

所　在　地　射水市三ケ1176番1　外２筆
調査期間　平成22年６月18日
調査面積　対象面積：1,091.8㎡　発掘面積：20.5㎡
調査原因　知的障害者拠点施設建設
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　なし
出土遺物　なし

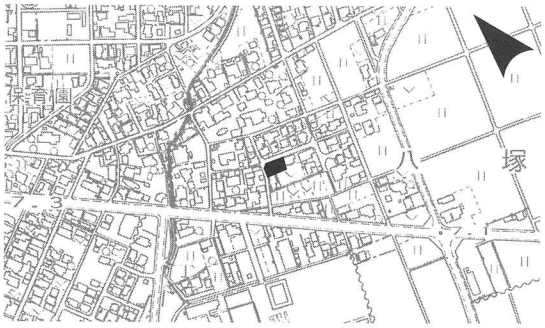


調査概要　土層は上から１層が造成盛土、２層が旧耕作土、３層が黒色（2.5Y2/1）シルトの自然堆積土、４層が黄灰色シルト（2.5Y6/1）の地山で、現況の造成盛土下約２ｍで検出した。対象地は三ケ遺跡の中央部に位置するが、隣接地の試掘調査においても、遺跡の広がりが確認されていないため、埋蔵文化財包蔵地の範囲変更が必要と考える。

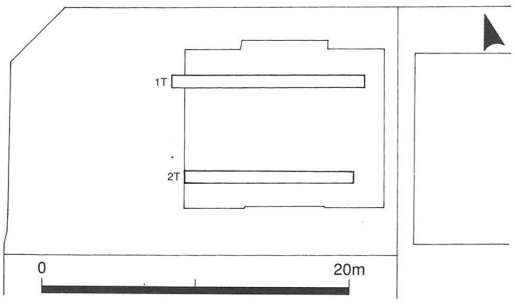


5．八塚Ａ遺跡

所　在　地　射水市八塚字川田367－1　外３筆
調査期間　平成22年８月18日
調査面積　対象面積：412.18㎡　発掘面積：18.8㎡
調査原因　集合住宅建築
調査担当者　田中　明
検出遺構　なし
出土遺物　なし

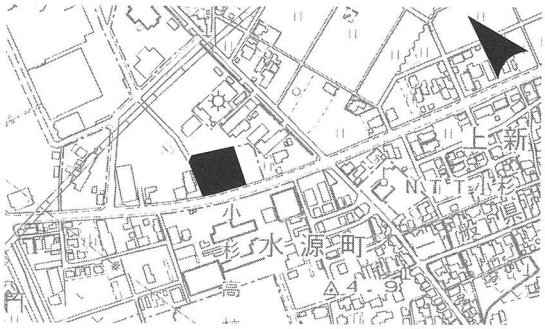


調査概要　対象地の現況は荒蕪地である。土層は上から１層が山砂造成盛土、２層が旧耕作土、３層が黒色（5Y2/1）シルトの腐植土、４層が灰白色（5Y7/1）シルトの地山である。植物遺体を多量に包含する堆積が、地山直上で確認できるため、沼沢地であったと考えられる。居住に適さない場所であり、遺跡の広がりは確認できなかった。

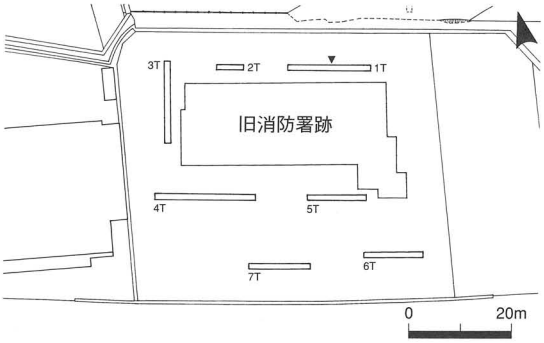


6．三ケ遺跡（第17図、図版12）

所　在　地　射水市三ケ1180番1
調査期間　平成22年８月30日
調査面積　対象面積：3,278.02㎡　発掘面積：110.7㎡
調査原因　分譲宅地造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　なし
出土遺物　古墳土師器

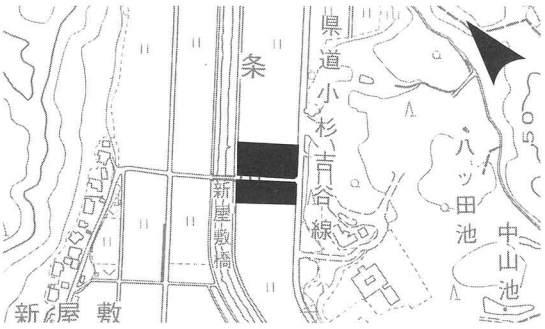


調査概要　土層は上から１層が造成盛土、２層が旧耕作土、３層が黒褐色（2.5Y3/1）シルトの自然堆積土、４層が黄灰色シルト（2.5Y6/1）の地山で、現況の造成盛土下約２ｍで検出した。遺構はなく、出土遺物も窪地への流れ込み堆積と考えられるため、遺跡の広がりは確認されなかった。隣接地の試掘結果も踏まえた包蔵地の範囲変更が必要である。

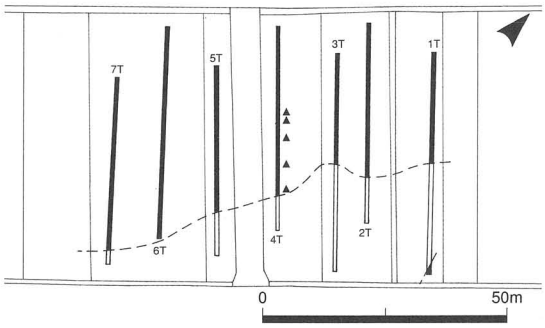


7．新屋敷遺跡（第17図、図版13）

所　在　地　射水市青井谷808　外５筆
調査期間　平成22年10月14日・15日
調査面積　対象面積：6,601㎡　発掘面積：444.6㎡
調査原因　駐車場造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　なし
出土遺物　古代須恵器

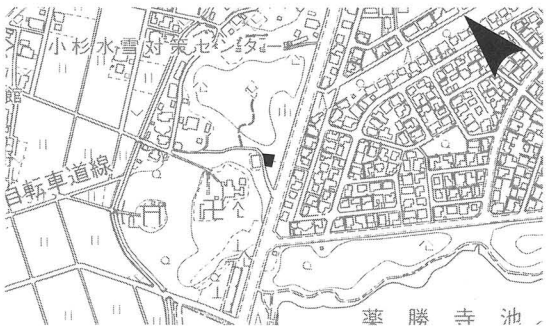


調査概要　対象地西側には下条川が隣接するため、旧流路と考えられる谷状地形が全トレンチで検出された。元々の下条川が現在より東側を流路としていたために生じた地形変化と考えられる。平安時代の須恵器が出土したが、遺構に伴わない散発的なものであった。遺物を包含する土層・遺構が確認されなかった為、遺跡の広がりは見られなかった。

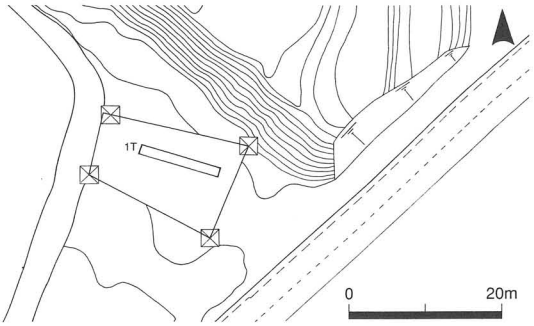


8．日宮城跡

所　在　地　射水市日宮字寺山88－1　外１筆
調査期間　平成22年11月16日
調査面積　対象面積：284㎡　発掘面積：6.4㎡
調査原因　駐車場造成
調査担当者　田中　明
検出遺構　なし
出土遺物　なし

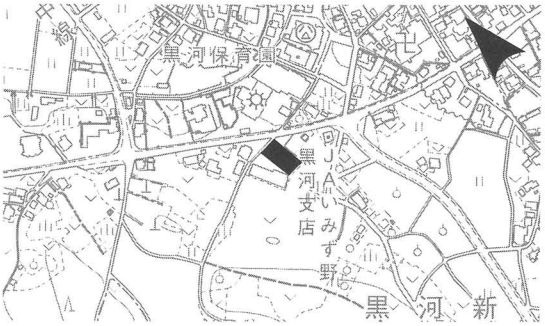


調査概要　日宮城は、15世紀中頃から畠山氏の守護代として射水・婦負二郡を支配していた神保氏の支城であった。射水平野と接する射水丘陵先端部に位置し、標高は最高点で29.6mを測る。対象地は造成前の地形図から、城郭の南東側を沿う谷間の最南端部にあたり、沼状の軟弱地盤であったと考えられる。その為、調査で地山は確認されていない。

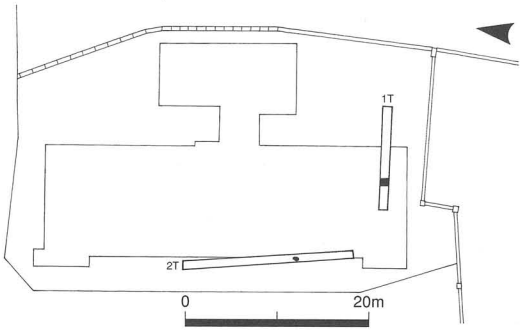


9．黒河南遺跡

所　在　地　射水市黒河字竹山3251－2　外２筆
調査期間　平成22年11月24日
調査面積　対象面積：2,001.42㎡　発掘面積：31㎡
調査原因　福祉施設建設
調査担当者　尾野寺克実・金三津英則
検出遺構　時期不明：溝１条・土坑１基
出土遺物　なし

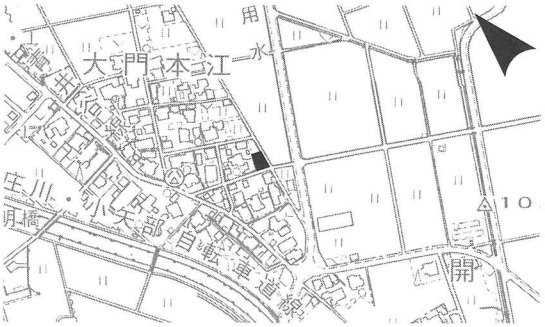


調査概要　対象地は南から北へ傾斜する丘陵の縁辺部に位置する。土層は５層に細分され、地山は浅黄色シルト（5Y7/3）である。最も低い２Ｔ西端と最も高い１Ｔ南端の間で約70cmの地山標高差があり、南・東から続く傾斜地形の谷部に位置する状況を示している。遺物を包含する土層・遺構が遺存せず、埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

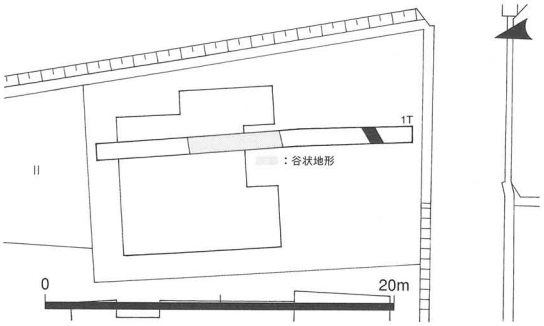


10．本江宮田遺跡

所　在　地　射水市大門本江614－7　外１筆
調査期間　平成22年11月25日
調査面積　対象面積：247.05㎡　発掘面積：18.2㎡
調査原因　個人専用住宅建築
調査担当者　金三津英則
検出遺構　時期不明：溝１条
出土遺物　なし

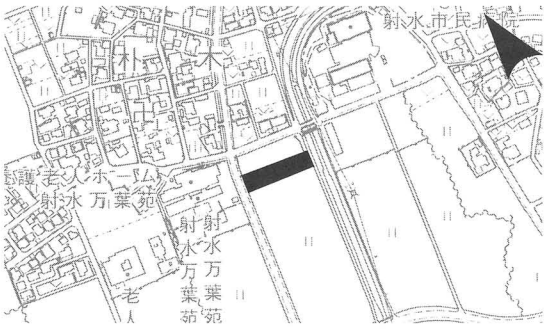


調査概要　土層は５層に細分され、上下２面の旧地表面が遺存する。上層地山は、厚さが最大15cm程度と薄く安定した堆積状況ではない。下層地山は、トレンチ中央部に谷が入り込む起伏のある地形となっている。遺跡の中心地は、平安時代頃の整備といわれる古道「熊野往来」の推定ルートが通っている現大門本江集落の中央部付近が想定される。

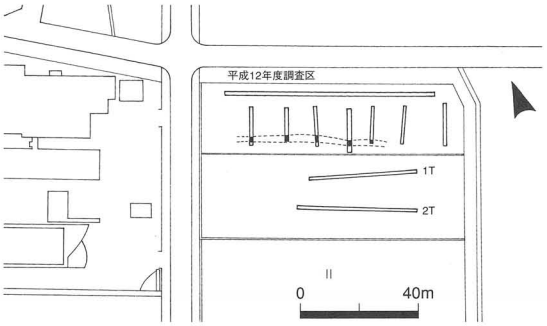


11. 朴木Ｃ遺跡

所　在　地　射水市朴木67番1
調査期間　平成22年12月1日
調査面積　対象面積：2,583㎡　発掘面積：61.7㎡
調査原因　駐車場造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　なし
出土遺物　なし

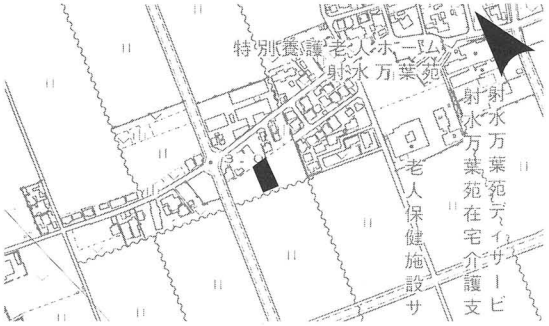


調査概要　対象地の現況は水田で、標高約2.1ｍに位置する。土層は４層に細分され、地山はにぶい黄色粘質シルト（2.5Y 6/3）である。平成12年度に北側隣接地の試掘調査で、弥生時代後期の溝１条を東西方向に確認していたが、今回の対象地には当該期の遺構は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。

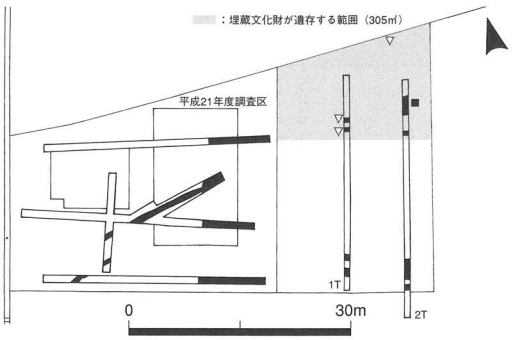


12. 朴木Ｃ遺跡（第17図、図版14）

所　在　地　射水市松木19番4
調査期間　平成22年12月８日
調査面積　対象面積：783㎡　発掘面積：49.6㎡
調査原因　駐車場造成
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　古墳時代：溝２条　中世：土坑１基
近代以降：溝２条
出土遺物　古墳土師器・中世珠洲

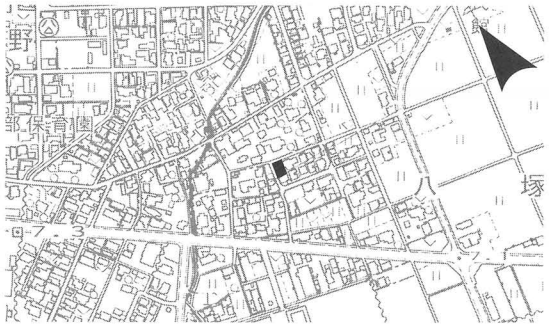


調査概要　対象地の現況は畑地で、標高約2.9ｍに位置する。土層は上から１層が水田耕土、２層がにぶい黄色（2.5Y6/4）シルトの地山である。両トレンチ北側で検出した溝・土坑から、古墳時代の土師器や中世の珠洲が出土している。このため、対象地北側の範囲内で、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、記録保存（305㎡）が必要である。

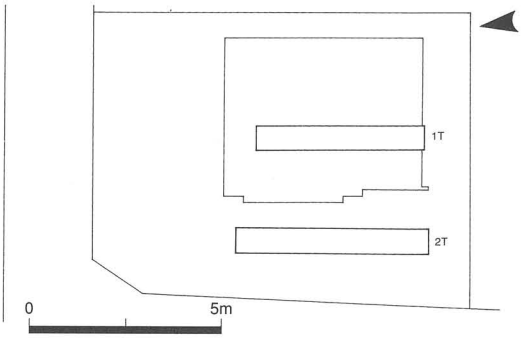


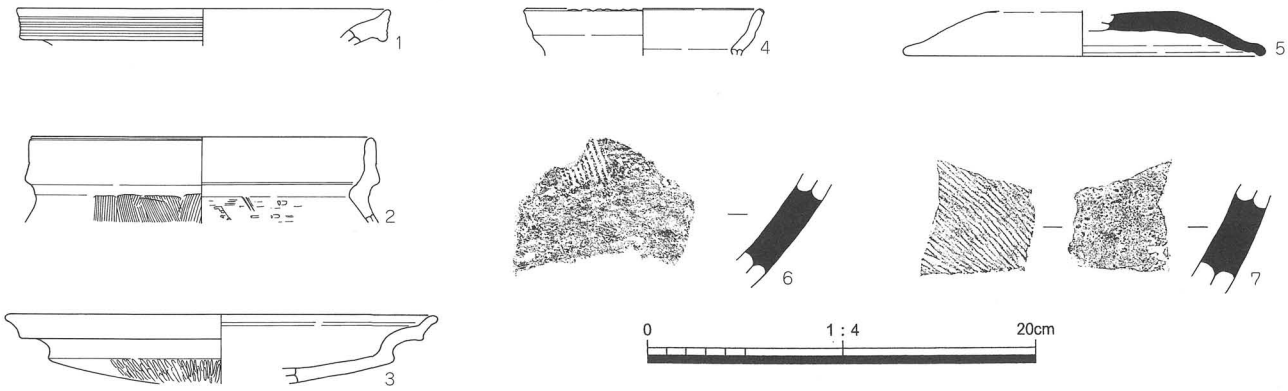
13. 八塚A遺跡

所　在　地　射水市八塚字川田336－1　外２筆
調査期間　平成23年３月29日
調査面積　対象面積：237㎡　発掘面積：11.9㎡
調査原因　個人専用住宅建築
調査担当者　田中　明・金三津英則
検出遺構　なし
出土遺物　なし



調査概要　対象地の現況は畑地である。土層は上から１層が造成盛土、２層が旧耕作土、３層が黒褐色（2.5Y3/1）粘質シルトの床土、４層が灰黄色（2.5Y6/2）シルトの地山である。植物遺体を包含する堆積が、地山直上で確認できるため、沼沢地付近であったと考えられる。居住に適さない場所であり、遺跡の広がりは確認できなかった。



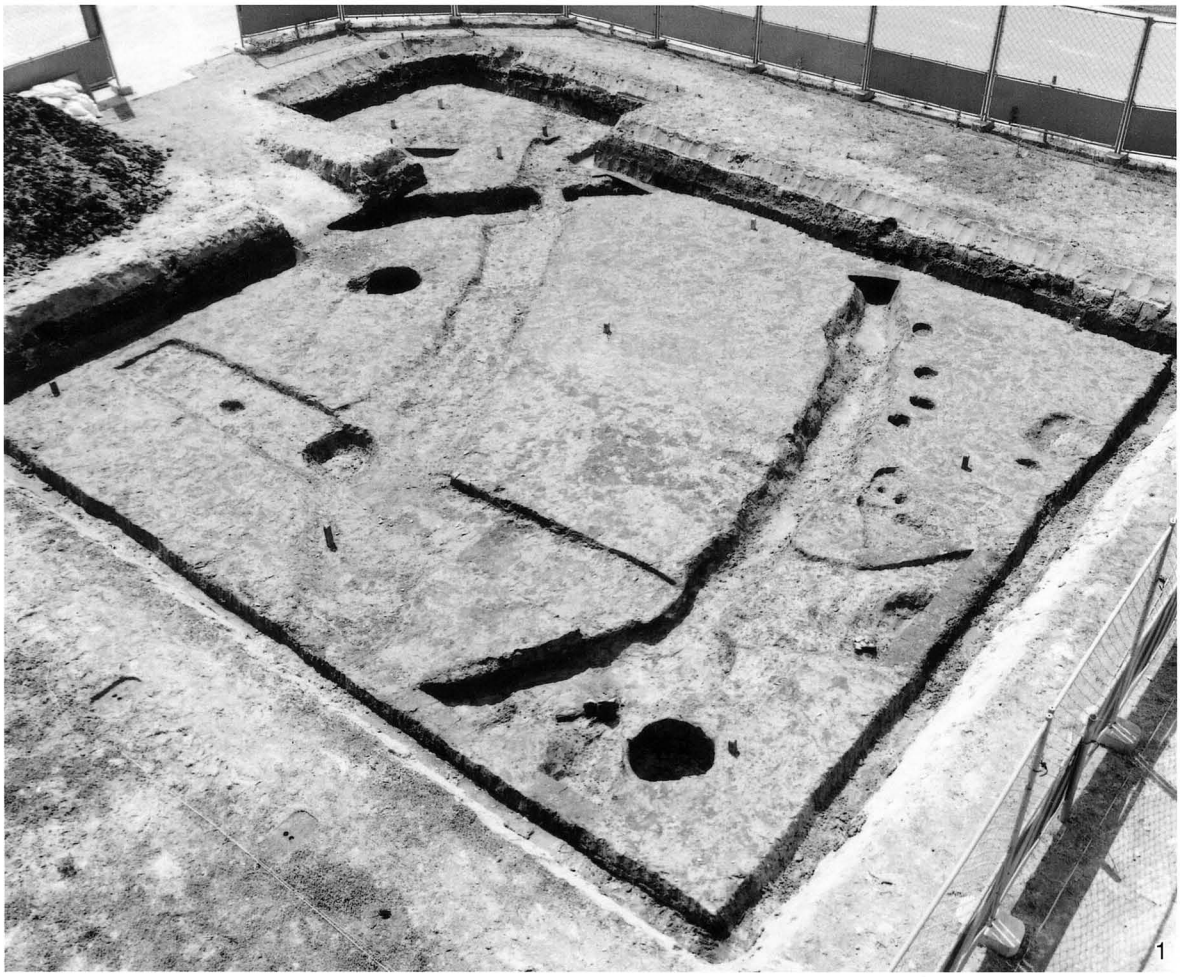


第17図　遺物実測図［試掘調査］（1/4）
小林遺跡（1～3）　三ケ遺跡（4）　新屋敷遺跡（5）　朴木C遺跡（6・7）

図版	No.	遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備　考	残存量
第17図	1	1 T	弥生土器	甕	19.3			小林遺跡　外面煤付着	破片
	2	1 T	弥生土器	甕	17.7			小林遺跡	口1/8
	3	1 T	弥生土器	高坏	22.2			小林遺跡	口1/10
	4	1 T	土師器	甕	12.2			三ケ遺跡　古墳時代前期	口1/8
	5	4 T	須恵器	蓋	13.4			新屋敷遺跡	口1/5
	6	2 T	珠洲	片口鉢				朴木Ｃ遺跡　卸目７条	破片
	7	2 T	珠洲	甕				朴木Ｃ遺跡　内面タール付着	破片

第５表　出土遺物観察表（試掘調査）　　口：口縁部　底：底部　体：体部　坏：坏部　脚：脚部

１．遺構全景
（北西から）

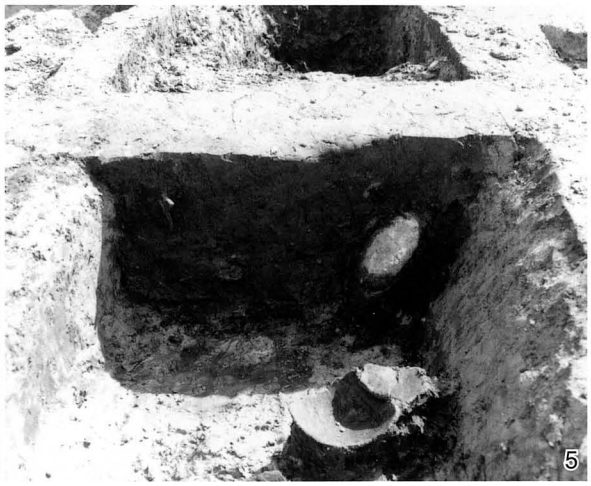


２．土坑SK03
（南から）

３．溝SD07D－D'
（南から）

４．溝SD09 I－I'
（東から）

５．土坑SK12
（北東から）



図版２　高島Ａ遺跡〔７地区〕

１．土坑SK12（北東から）
遺物出土状況

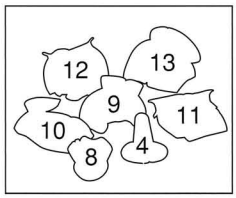
２．溝SD09（東から）
遺物出土状況

３．土坑SK10（南から）
遺物出土状況
〔第６図28(左)
29(右)〕

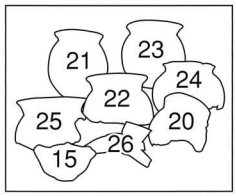
４．土坑SK17（北東から）
遺物出土状況

５．溝SD18（南から）
遺物出土状況
〔第５図２〕

出土遺物
土器
土坑SK12

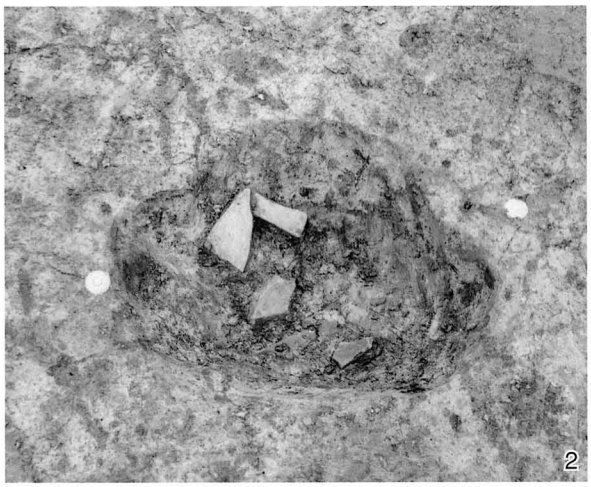


土器
土坑SK17



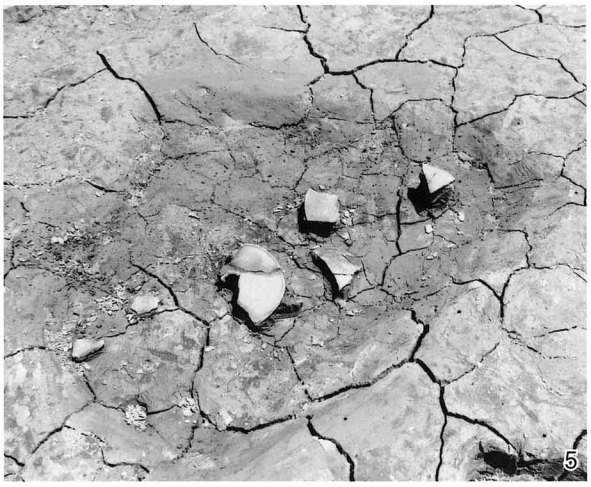
図版４　高島Ａ遺跡〔８地区〕

1．遺構全景
（東から）



2．土坑SK12（東から）
遺物出土状況

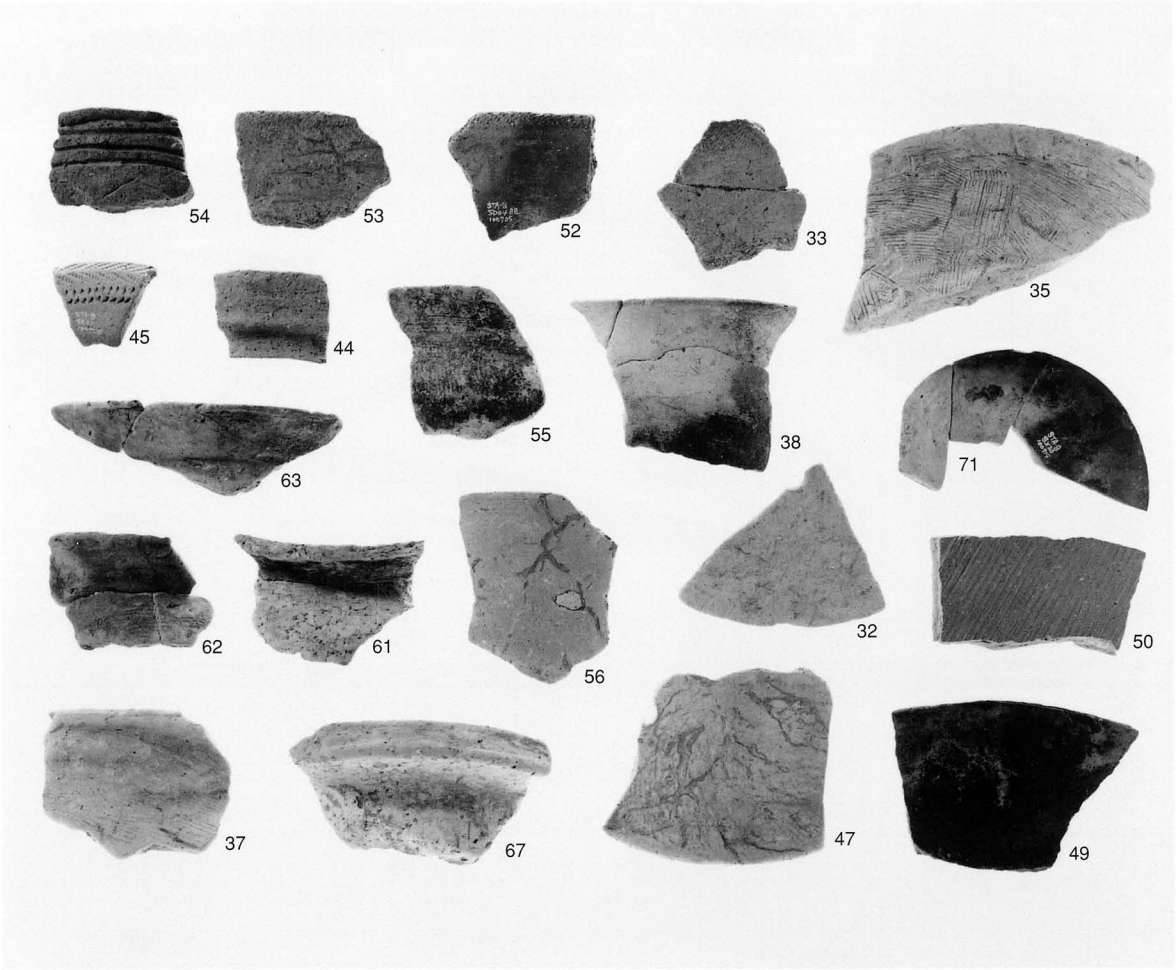
3．井戸SE20（南から）
遺物出土状況

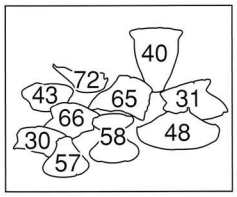


4．土坑SK02（北から）
遺物出土状況

5．土坑SK43（西から）
遺物出土状況

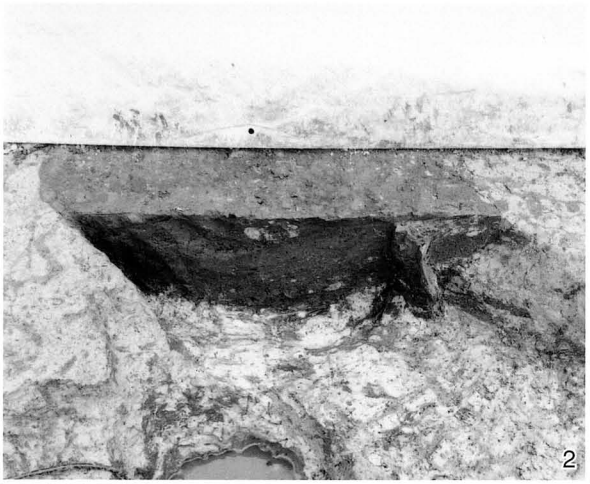
出土遺物
土器

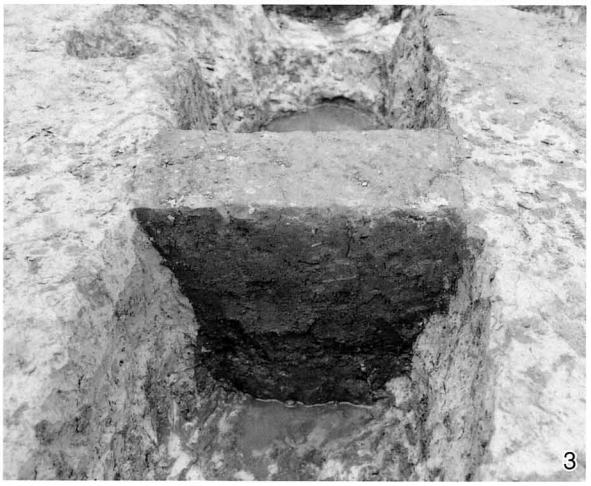

54
53
52
33
35
45
44
55
38
71
63
62
61
56
32
50
37
67
47
49


40
72
43
65
31
66
48
30
58
57

図版６　高島Ａ遺跡〔９地区〕

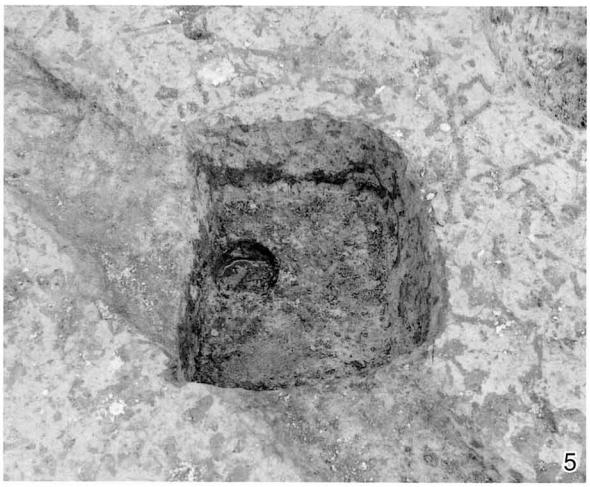
1．遺構全景
（東から）





2．溝SD18G―G'
（南から）

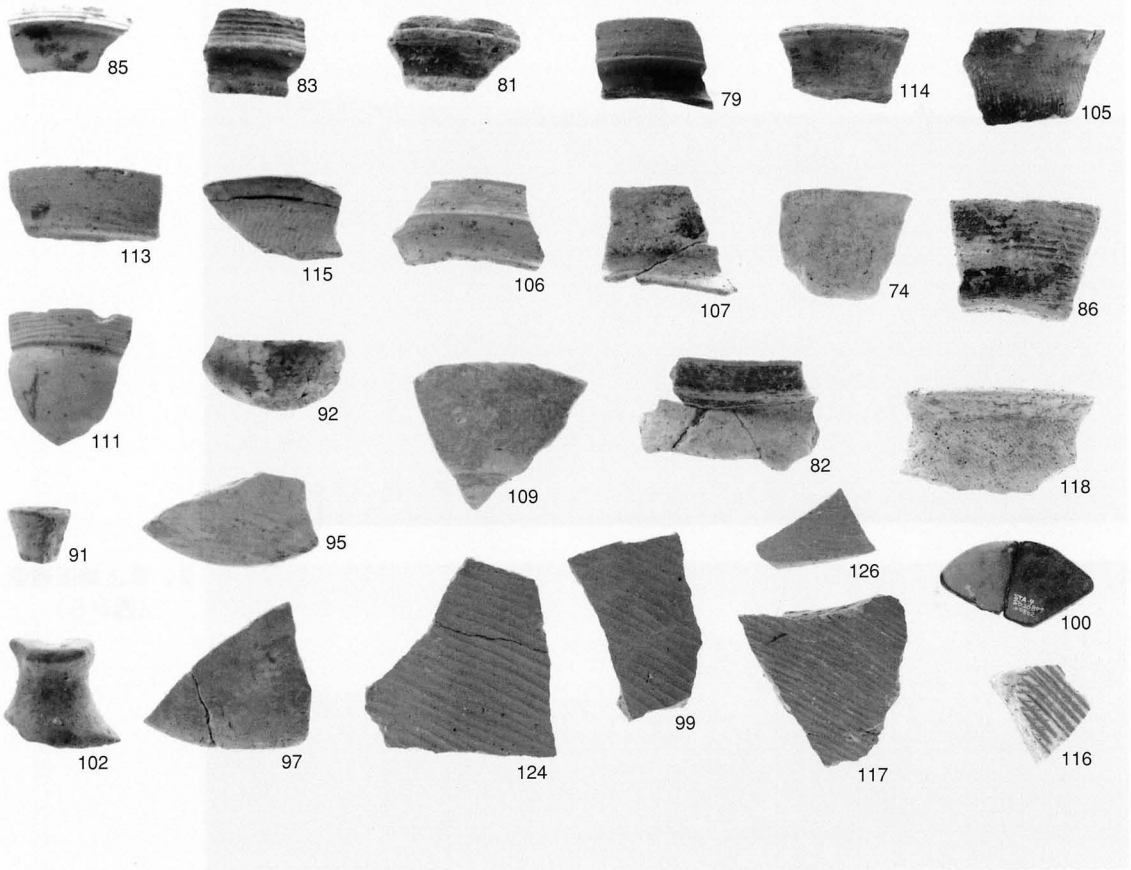
3．溝SD20J―J'
（南から）

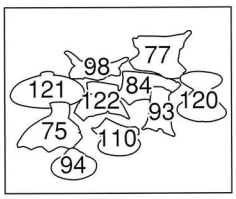


4．溝SD22（西から）
遺物出土状況

5．土坑SK28（東から）
柱痕状況

出土遺物
土器


85
83
81
79
114
105
113
115
106
107
74
86
111
92
109
82
118
91
95
126
100
102
97
124
99
117
116


77
98
121
122
84
120
93
75
110
94

図版８　広上地区分布調査

１．広上地区遠景
（西から）

２．広上地区遠景
（西から）

３．広上地区遠景
（北から）

１．35トレンチ土層断面
（北から）

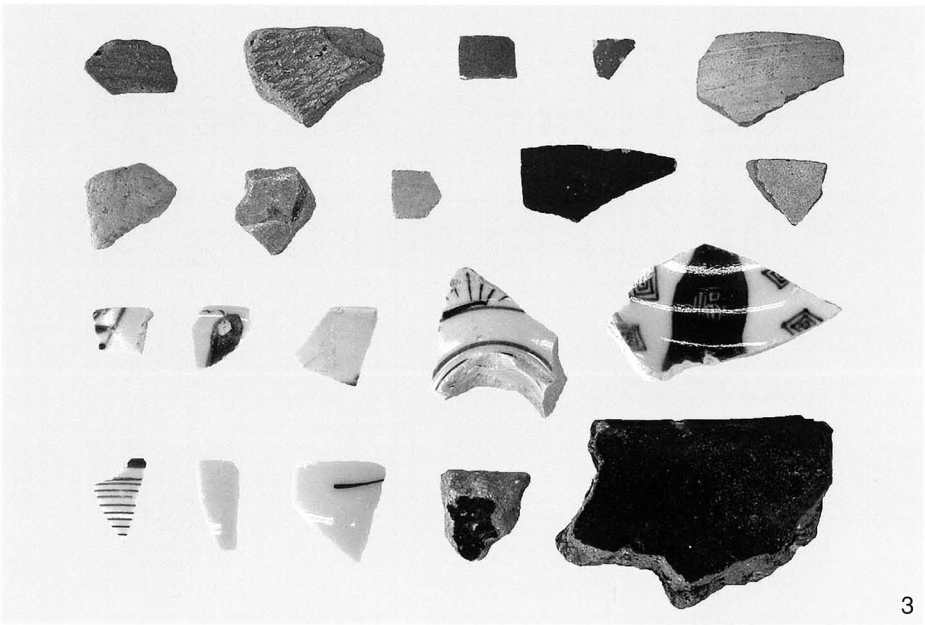
２．96トレンチ土層断面
（北から）

３．142トレンチ土層断面
（南から）

図版10　広上地区分布調査

1．重機掘削状況
（西から）

2．ボーリング状況

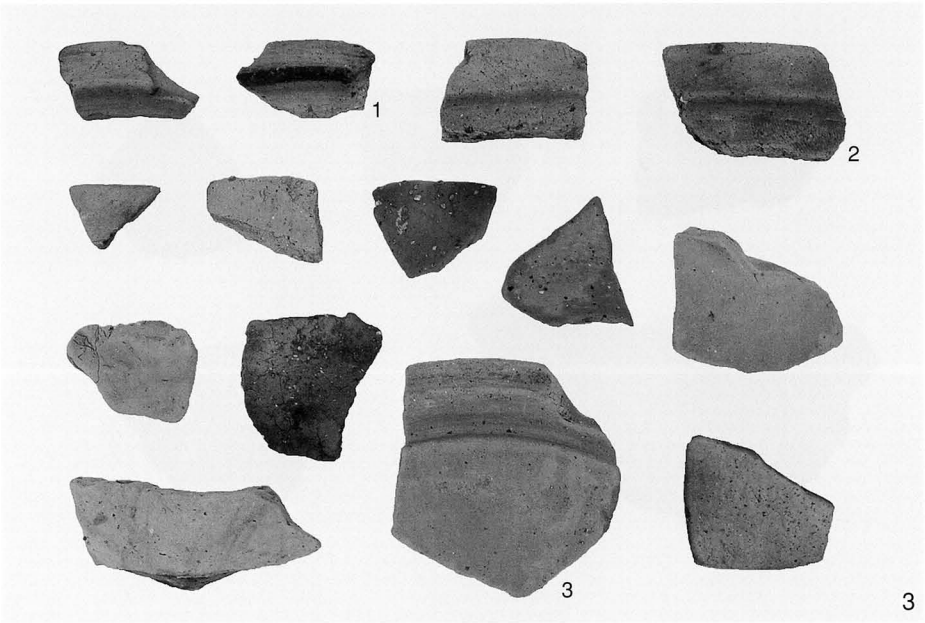


3．出土遺物
土器・陶磁器

1．１トレンチ掘削状況
（北から）

2．遺構検出状況
（北から）

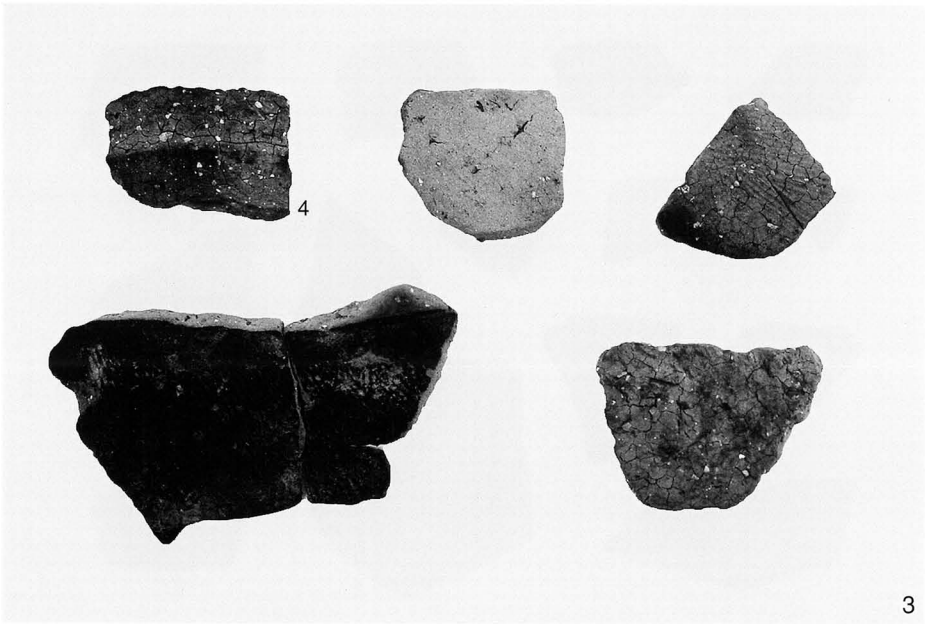
3．出土遺物
土器



図版12　三ケ遺跡〔試掘調査〕

1．対象地全景
（西から）

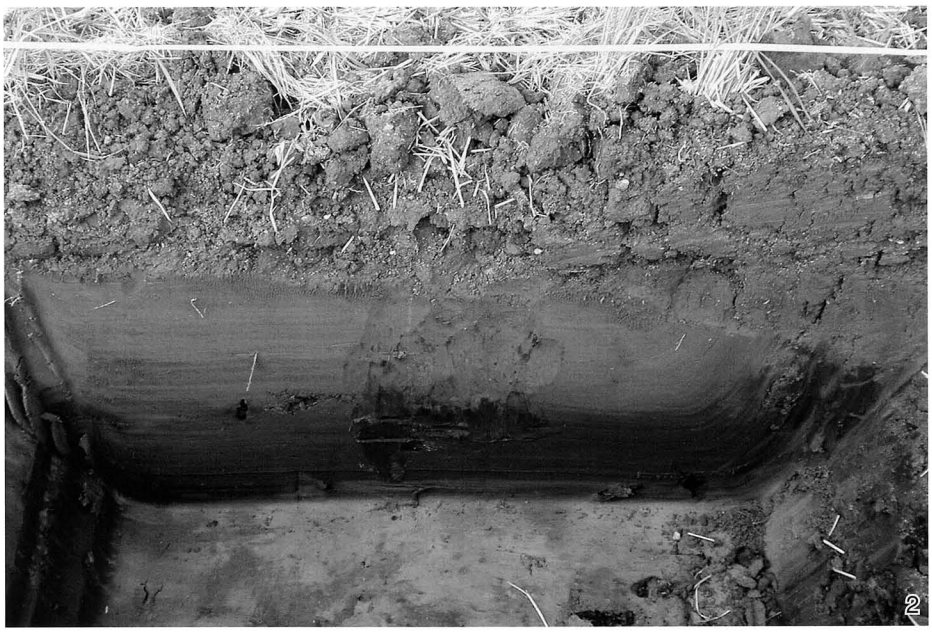
2．4トレンチ土層断面
（南から）



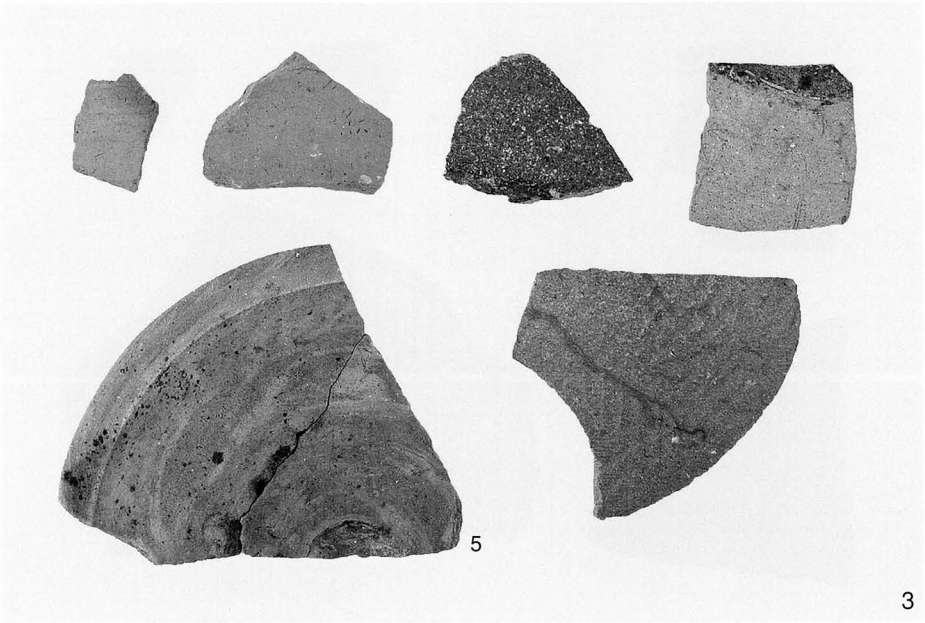
3．出土遺物
土器

1．1トレンチ掘削状況
（東から）

2．4トレンチ土層断面
（南から）



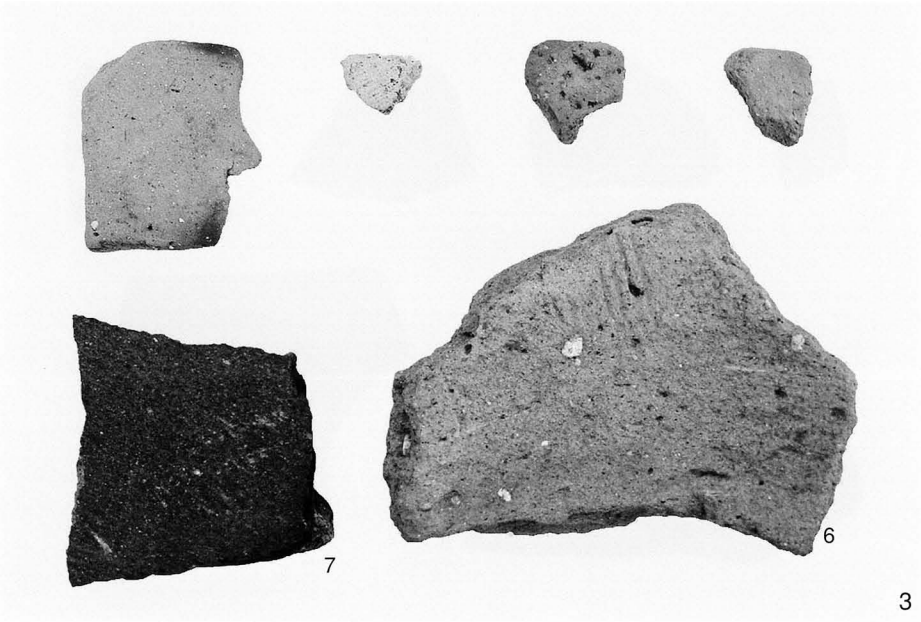
3．出土遺物
土器



図版14　朴木C遺跡〔試掘調査〕

1．1トレンチ溝SD01
（西から）

2．2トレンチ土坑SK01
（西から）



3．出土遺物
土器

報告書抄録

ふりがな	いみずしないいせきはっくつちょうさほうこくよん
書名	射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ
副書名	高島A遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他
編著者名	田中　明　　金三津　英則
編集機関	射水市教育委員会
所在地	〒933－0292　富山県射水市加茂中部893番地　TEL0766－59－8093
発行年月日	西暦2012年2月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たかしまえいいせき 高島A遺跡	とやまけんいみずし 富山県射水市 かがのみややよい 鏡宮弥生	16211 (16203)	027 (028)	36° 45′ 14″	137° 05′ 15″	平成22年度 20100527～ 20100609	111㎡	個人専用 住宅建築
						平成22年度 20100628～ 20100722	102㎡	
						平成22年度 20100723～ 20100818	92㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高島A遺跡	集落 散布地	弥生（中期・後期） 古墳時代（前期） 鎌倉・室町時代	溝・土坑・井戸 柵列	縄文土器・弥生土器 古墳土師器・珠洲 中世土師器	
要約	弥生時代中期後半から続いてきた集落の終焉期が古墳時代前期に至ることが判明した。				

＊コード欄の（　）内の数字は合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。
＊試掘調査の抄録は第４表を参照する。

射水市内遺跡発掘調査報告Ⅳ

－高島Ａ遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他－

2012(平成24)年２月29日　発行
編集・発行　射水市教育委員会
〒933－0292
富山県射水市加茂中部893番地
TEL 0766－59－8093
印　　刷　株式会社　二口印刷